

岩手大学国際教育センター報告 VOL.5 (2024)

## 目次

- 1 日本語教育実施報告
- 2 英語教育実施報告
  - a) 教養教育科目（英語コミュニケーション）関係
  - b) 教養教育科目（英語総合）関係
  - c) 大学院アカデミック英語
- 3 教養教育科目・国際教育科目
- 4 交換留学生「個別研究」報告
- 5 米国アールラム大学サイスプログラム関連事業報告
- 6 イーハトーブサマープログラム IUIS2024 実施報告
- 7 多言語多文化交流空間 Global Village
- 8 令和6年度新入生オリエンテーション報告
- 9 海外留学支援事業
- 10 IHATOVO グローバルコース・グローバルマイレージ報告
- 11 フィールドスタディ
- 12 地域日本語教育支援事業報告
- 13 日本留学フェア及び外国人学生のための進学説明会等
- 14 岩手大学外国人留学生同窓会事業報告
- 15 留学生アンケート
- 16 岩大グローバルアルムナイネットワーク事業報告
- 17 外国の大学との交流
- 18 国際交流支援コーディネータについて
- 19 Iwate University Global Fellow について
- 20 令和6年度交換留学生受入・派遣実績
- 21 訪問海外研修生受入実績
- 22 岩手大学海外派遣・留学プログラム一覧（短期研修・研究型）
- 23 国際研修試行計画事業報告
- 24 岩手大学外国人留学生地域派遣実績一覧
- 25 トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム 岩手大学の採択状況

# 日本語教育実施報告

## 1.概要

国際教育センターでは、1)大学院入学前予備教育日本語研修コース、2)国際教育科目日本語科目、3)教養教育外国語科目日本語科目、の3種の日本語教育を各学期に提供している(授業科目は下表を参照)。授業科目・内容は、教養教育上級日本語科目以外は前後期とも同じである。受講者には、学期開始前にオンラインプレースメントテスト受験とオリエンテーション参加を義務づけ、オリエンテーションでは、英語、中国語の通訳を介し、講義の概要、受講方法等の説明を行った。受講者はプレースメントテストの結果のレベルの授業の中から授業を選択し、受講した。

## 2 授業概要

<日本語研修コース>(初修者対象:交換留学生は国際教育科目 11 単位として履修可)

日本語研修コースは、文部科学省国費留学生入学前予備教育と国際教育科目を兼ねて開講。1 学期あたりの総学習時間は 340 単位時間で、初級終了(A2 修了相当)を目指す。

教科書:『ひとりで学べるひらがな・カタカナ』(スリーエーネットワーク)

『A New Approach to Elementary Japanese』Vol.1,2(くろしお出版)

	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)
総合(8:40-12:10)	総合(坂本)	総合(松林)	コミュニケーション (松岡)	総合(坂本)	総合(松林)
漢字(13:00-14:00)		漢字(坂本)		漢字(松林)	

<国際教育科目日本語科目>

初級から上級まで5レベルの授業を実施した(科目、担当教員、実施時間帯は以下の表を参照)。

◎初級日本語 I (入門・初級対象 A1.1 相当)

科目名	内 容	時間	担当
文 法	初歩的な文法、語彙等の学習。テキスト:『まるごと A1 りかい』(三修館)	水 1	加藤
会 話	日常生活で使う簡単な会話学習。テキスト:『まるごと A1 かつどう』(三修館)	木 3	佐々木
表記・読解	かな、簡単な漢字の読み、および簡単な文章読解の学習。(ハンドアウト)	水 2	大高

◎初級日本語Ⅱ(150時間程度学習した人対象。A1.2-A2.1相当)

科目名	内 容	時間	担当
文 法	初級後半の文法学習。テキスト:『まるごと A2 初級 りかい』(三修館)	月 1・2	大高
漢 字	『にほんごチャレンジかんじ・ごいN4/5』(アスク)	木 2	佐々木
会 話	日常生活のやや長い会話学習。テキスト:『まるごと A2初級』(三修館)	木 1	佐藤

◎中級日本語Ⅰ(300時間程度学習した人対象 B1レベル相当)

科目名	内 容	時間	担月当
文 法	初級レベルの復習、中級前半レベルの文法学習。テキスト:短期集中初級日本語文法総まとめポイント20』、『中級日本語文法整理ポイント20』(アルク)	月木 1	松岡
会 話	日常生活や大学生活に必要な基礎的な会話学習。テキスト:『聞いて覚える話し方ー日本語生中継初級1』(アルク)	月 2	加藤
読 解	アカデミック文章読解基礎。テキスト:『大学・大学院留学生の日本語1読解編』(アルク)	水2	佐藤
作 文	アカデミック文章作成基礎。『大学・大学院留学生の日本語1作文編』(アルク)	火 2	坂本
漢 字	中級前半レベルの漢字学習。『日本語総まとめ 漢字N3』(アスク)	木 2	松林

◎中級日本語Ⅱ(450時間程度学習した人対象 B2レベル相当)

会 話	大学生活(研究室、授業等)に必要なやや高度な日本語の会話学習。テキスト:『聞いて覚える話し方日本語生中継中上級編』(くろしお出版)	月 1	加藤
読 解	やや高度なアカデミックな文章の読解学習。テキスト:『留学生のための読解トレーニング』(凡人社)	木4	佐々木
文 法	日本語能力試験N2程度の文法学習。テキスト:『中級日本語文法整理ポイント 20』(スリーエーネットワーク)	水 2	加藤
作 文	やや高度な文章作成方法学習。テキスト:ハンドアウト	火 3	加藤
漢 字	やや高度な漢字・語彙学習。テキスト:『日本語総まとめ N2漢字』(アスク)	水 3	大高
アカデミック 日本語	日本語能力試験N2対策。テキスト:『耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN2』(アルク)	木 4	松林

◎上級日本語(600時間程度学習した人対象 C1相当以上)

ビジネス 日本語	仕事で使う日本語表現学習。テキスト:『日本企業への就職ービジネスマナーと基本のことば』(アスク)	月 3	坂本
アカデミック 日本語	日本語能力試験N1対策学習。テキスト:『耳から覚える日本語能力試験文法トレーニングN1』(アルク)	金 4	坂本

<教養教育 外国語科目> (600 時間程度学習した人対象 C1相当以上)

上級日本語 A・E (口頭表現)	前期は討論、後期は発表の口頭表現能力を養成する。 テキスト:ハンドアウト	月 4	松岡
上級日本語 B・F (論文作成)	大学の学習、研究に必要なレポート、論文作成学習。 テキスト:(前期)大学・大学院留学生の日本語4論文作成 編(アルク)	水 4	加藤
上級日本語 C・G(文系)	前期は、文系分野で使われる基礎的な語彙力、後期は文 系の専門分野別日本語表現学習。 テキスト:ハンドアウト	木 3	加藤
上級日本語 C・G(理系)	実験、レポート等、理系分野で使われる専門基礎用語、表 現力学習。テキスト:ハンドアウト	金 1	大高
上級日本 D・H(読解)	授業、研究、日常生活で接触する文字情報の読解力学 習。テキスト:大学・大学院留学生の日本語3論文読解編 (アルク)	金 2	佐々木

\*A・B・C・D は前期、E・F・G・H は後期科目。農、理工学部正規留学生日本語履修者  
は上級日本語C・G(理系)必修。

### 3 実施状況

	交換・日研生等		総合科学研究科		学部正規		博士課程・研究生等	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
日本語研修コース	2	2					6	1
初級日本語 I 文法	1							5
初級日本語 I 表記・読解	1	2						4
初級日本語 I 会話	1		3				1	8
初級日本語 II 文法	2	1					2	2
初級日本語 II 漢字	2	1	1					2
初級日本語 II 会話	2	6	1	1				3
中級日本語 I 文法	4	5	1				4	6
中級日本語 I 会話	4	5		1			4	3
中級日本語 I 作文	6	5		1			3	3
中級日本語 I 読解	6	5					3	7
中級日本語 I 漢字	3	4	2	1			3	3
中級日本語 II 文法	3	4		1			4	3
中級日本語 II 会話	2	5	1				3	2
中級日本語 II 読解	3	4		1			3	3
中級日本語 II 作文	2	4	1	1			3	2

中級日本語Ⅱ漢字	4	3		1			2	3
中級日本語Ⅱアカデミック	3	4		2			2	3
上級日本語ビジネス	3	4		1				1
上級日本語アカデミック	1	5					1	
上級日本語 A・E(口頭)	3	7				2	4	1
上級日本語 B・F(論文作成)	5	8	1		3	3		1
上級日本語 C・G(理系)		1	2		3	1		
上級日本語 C・G(文系)	5				1	2	2	4
上級日本語 D・H(読解)	7	2	1	1	3	4	1	2
小計	75	87	14	12	20	12	45	71
合計	162		26		32		116	

**\*人数は延べ数**

\*総合研究科:大学院総合研究科「アカデミック日本語」として単位認定

\*特別聴講学生=交換留学生、日本語・日本文化研修留学生、教員研修生、帝京大学国内留学生、アールム大学 SICE 生

\*院生・研究生等:大学院生、研究生、学生・教員の家族等。単位認定はしない

\*今年度は前期に帝京大学国内留学生 10 名が加わったため、受講者数が増加した。

報告:松岡洋子

## 英語教育実践報告

### a) 英語コミュニケーション

In the 1<sup>st</sup> semester I taught 2 English Communication I classes. In the 2<sup>nd</sup> semester I taught two English Communication II classes and 1 English Communication III class.

All of my English Communication I & II classes were the same group of students, so I taught the same students twice a week for a year. The classes consisted of 32 Japanese students and 1 international student.

English Communication III consisted of 32 students. This class was similar to English Communication I, in that the students had an active learning classroom. In the classroom there was more emphasis on presentations. Each week students had to give a mini speech to their groups and then to the class.

報告:ピーターセン ジェイコブ

### b) 教養教育科目(英語総合)

教養教育科目英語総合における授業の質担保を目的とした非常勤講師対象 FD ミーティングや令和7年度用授業コーディネイトを行った。

#### 1. FD ミーティング

英語総合は習熟度別クラスでリーディングとライティングに焦点を当てた英語の基礎力固めをすることを目的としている。その目的に合わせて選定した共通教科書の使い方や補助教材活用方法の説明を行い、英語総合担当非常勤講師とのコミュニケーション強化を図った。参加がかなわなかった教員用にミーティングを録画し、共有した。

<第一回詳細>

日時:2024年9月12日 9:00-11:00

場所:岩手大学学生センターB棟グローバルヴィレッジ(ハイブリット)

一部:英語総合、コミュニケーションの共通内容

二部:英語総合、ライティングにおける語彙査定方法

<第二回詳細>

日時:2025年3月17日 14:00-17:00

場所:岩手大学学生センターB棟グローバルヴィレッジ(ハイブリット)

一部:時間割・ペア科目、共通シラバスにおける注意点

二部:教授法のデモンストレーション

三部:2025年の展望

## 2. 授業コーディネイト

英語総合の履修方法は、2通り(週に1または2種類の授業を履修する)であり、学生が同じ内容の授業を履修することがないように、また、国際教育センターの共通シラバス授業を前期・後期のどちらかでは受けられるように、教員配置を行なった。

報告：山内亜美

### c) 大学院アカデミック英語

#### 1. Spring Semester 2024 (Listening and Speaking, B1/B2)

By the end of the course, students were able to express their detailed opinions on common topics in teams and to lead such discussions, to deliver concise focused presentations on their research topics within the time limit and to give and receive constructive feedback from other students and the teacher in English. In contrast, at the time of the selected storytelling techniques and the three-minute-thesis approach introduction, none of the students demonstrated familiarity with them.

To achieve such outcomes, the course was divided into two sections. The first section focused on developing student-led discussions and familiarizing students with storytelling techniques helpful in presentations. Students were instructed to:

- watch 6 pre-assigned videos and take notes for further class discussions
- be proactive in 10-15-minute student-led team discussions
- apply the techniques introduced by the teacher to their area of research
- record weekly videos and reply to other students' videos

The second section focused on honing students' presentation skills in front of the whole-class audience. Students were instructed to:

- deliver three-minute-thesis style presentations on their research topics in three cycles of adjustments

- ask and respond to the audience questions
- rate other students' presentations (the slides and the delivery) according to a set of criteria distributed by the teacher

## 2. Spring and Fall Semesters 2024 (Reading and Writing, A2 and B1/B2)

By the end of the course, students were able to locate research articles in academic journals ranked in Q1/Q2, assess the scope of the articles' value for their research purposes, comprise short article summaries and engage in peer review with considerations towards their audience in English. In contrast, at the onset of the course, only 1 student demonstrated familiarity with most of the academic reading and writing techniques introduced.

To achieve such outcomes, students practiced:

- navigating Google Scholar and Scopus indexed journals
- evaluating the quality of a journal (including the trustworthiness of the journal's web resources)
- analyzing and applying the Rhetorical Planning Wheel
- writing short and extended definitions
- paraphrasing research article abstracts
- creating an annotated bibliography

The number of students per class were:

	人文社会	教育	理工	農学	大学院生
1 <sup>st</sup> Semester of 2024					
Academic English (LSRW) A2					1
Academic English (Listening and Speaking) B1-B2					5
2 <sup>nd</sup> Semester of 2024					
Academic English (LSRW) A2					5

Academic English (Reading and Writing) B1-B2					4
--	--	--	--	--	---

報告:ピーターセン ジェイコブ

## 教養教育科目・国際教育科目

### 概要

国際教育センターの専任教員は、教養科目の外国語科目（英語科目、日本語科目）のほかに、文化、社会、地域科目を担当している。また、国際教育科目として交換留学生対象日本語科目のほかに、共修科目、交換留学生向けに英語による科目を担当している。

なお、今年度前期に帝京大学国内留学プログラムの留学生（2年次）10名を特別聴講学生として受入れ、学生は以下の科目を履修した。

＜履修単位：日本語科目 10 単位 文化科目 6 単位＞

日本語科目（10 単位必修） ※日本語科目 8 科目＋日本事情 A または、日本語科目 10 科目を履修

中級			上級		
科目名	時間割	単位	科目名	時間割	単位
中級日本語 I 会話	月 1	1	中級日本語 II 会話	月 2	1
中級日本語 I 読解	月 2	1	上級日本語アカデミック日本語	月 3	1
中級日本語 II 聴解	月 3	1	中級日本語 II 作文	火 3	1
中級日本語 I 文法 1	火 1	1	上級日本語漢字	水 1	1
中級日本語 I 作文	火 2	1	中級日本語 II 文法*	水 2	1
中級日本語 II 文法*	水 2	1	中級日本語 II 漢字*	水 3	1
中級日本語 II 漢字*	水 3	1	中級日本語 II 文法 B*	木 3	1
中級日本語 I 漢字	木 2	1	上級日本語会話	木 4	1
中級日本語 II 文法 B*	木 3	1	中級日本語 II 読解	金 1	1
中級日本語 II アカデミック日本語	金 2	1	上級日本語ビジネス日本語	金 3	1
日本事情 A				集中	2

文化科目（6 単位選択必修）

科目名	概要		
多文化コミュニケーション A	日本人・留学生共修授業。多文化社会の課題について討論、共同作業を実施。中学生との交流事業含む。（上級向・履修者数制限有）	月 4	2
Japanese History A	簡単な英語による日本の歴史学習	火 3	2
岩手学 A（やさしい英語授業）	岩手の文化学習（視察・資料学習・まとめ）	水 4	2
Comparative Japanese	やさしい英語による比較歴史学習	木 4	2

History A			
英語で学ぶ日本の文化	生け花を英語で学ぶ実技授業（履修者数制限有）	水 5	2
Comparative History A	やさしい英語による比較歴史学習	木 4	2
国際合宿	観光をテーマとした課題設定型研修	集中	2

## 1. 多文化コミュニケーション A・B(教養教育科目)

日本人学生、外国人留学生の共修科目である多文化コミュニケーションA(前期)、多文化コミュニケーションB(後期)では、多文化社会におけるコミュニケーション課題をトピックとして取り上げ、討論、共同作業を通じた実践的な授業を行った。授業は、国際教育センター専任教員2名(松岡・山内)が担当した。

多文化コミュニケーション A(前期)は、主として2年次が履修対象で、これに加え、交換留学生と帝京大学国内留学生47名(日本人学生23名、留学生15名、帝京大留学生9名)が履修した。今年度も、二戸市教育委員会主催中学生異文化交流事業との合同授業を行う予定であったが、移動中のアクシデントにより中学生が参加できなくなり、学生のみでグローバルランチをテーマに中学校の給食メニュー開発プロジェクトを行い、二戸市教育委員会宛にアイデアを共有した。

多文化コミュニケーション B(後期)は、主として1年次が履修対象で、これに交換留学生も加え37名(日本人学生17名、留学生20名)が履修した。第4週に1泊2日の合宿研修(岩手山青少年交流の家)を組み込み、「多文化防災イベント」をテーマに多文化社会における防災イベントの企画作成の協働作業を実施した。

本授業は、留学生と日本人学生が議論、協働作業を行う数少ない共修機会となっており、この授業を機に交流が始まった事例も多く、今後もテーマを工夫しながら継続していきたい。

報告:松岡洋子

## 2. 国際合宿(国際教育科目)

前期集中講義として、5月下旬から7月上旬に「国際合宿」(2単位)を、国際教育センター専任教員2名(松岡・山内)が担当して実施した。参加学生は21名(留学生2名、帝京大学留学生9名、日本人学生10名)が参加し、日本人学生のうち3名は総合科学研究科地域創生専攻の大学院生が専攻科目「グローバルコミュニケーション」の代替科目履修者として参加した。

今年度は、「災害・地域産業と持続可能な社会」をテーマに、人口減少、産業振興などに伴う地域課題について、遠野、陸前高田をフィールドに以下の通り実施した。

5月下旬：オリエンテーション・視察準備  
6月1日(土)：視察①遠野市宮守川上流生産協同組合(農業体験、講義)  
6月中旬：視察①振り返り+視察②準備  
6月29日(土)－30日(日)：視察②陸前高田市(陸前高田野外活動センター泊  
陸前高田グローバルキャンパス(防災ワークショップ)  
長洞元気村(水産業体験・震災体験談)  
東日本大震災津波伝承館・博物館見学  
7月上旬：振り返り・学びの整理・最終課題提出

事前研修での情報収集を経て現地研修を行ったが、遠野、陸前高田の地域の関係機関の協力を得て、地域課題について学びを深めた。また、グループワークでの異言語異文化混在によるコミュニケーションによる協働作業を通じ、異文化対応力を高めた。

報告：松岡洋子

### 3. Japanese History

国際教育科目「Japanese History」は日本語能力の低い留学生を中心に行う授業だが、日本の学生も参加できる日本文化プログラム。

「Japanese History A」(前期)は日本の古代史をテーマにし、初めての「日本人」・新石器時代の日本列島と朝鮮半島・弥生文化の形成・交易と海のシルクロード・古墳時代と王権の誕生・飛鳥時代前期・レポート・律令国家の成り立ち・奈良時代前期・奈良時代後期・平安時代・地方史・考古学と歴史学・復習の順で講義を行った。

「Japanese History B」は日本の近代史をテーマにし、江戸時代・幕末・戊辰戦争・明治天皇・軍事化・日清戦争・レポート・日露戦争前期・日露戦争後期・日本の植民地と第一次世界大戦・大陸の戦争・戦争の拡大・敗北・復習の順で講義を行った。

授業の基本的な形は講義だが、履修生はプレゼンテーション、クラスワーク、ディスカッションも行った。教室内で英語を使い、基本的に英語の論文も宿題として読ませ、レポートを英語で書かせた。令和5年度の参加者は前期2名(留学生・日本学生それぞれ1名)、後期4名(留学生・日本学生それぞれ2名)。

報告：アンデス・カールキビスト

#### 4. Comparative Japanese History A・B

国際教育科目「Comparative Japanese History」は日本語能力の低い留学生を中心に  
行う授業だが、日本の学生も参加できる日本文化プログラム。

「Comparative Japanese History A」(前期)は日本の神話をテーマにし、ヨーロッパと日  
本神話①・日本神話とは・印欧神話と日本神話・ヨーロッパと日本神話②・東南アジアと日  
本神話・初期の仏教・レポート・神話と政治(3回)・神話と旅(2回)・風土記の神話・復習  
の順で講義を行った。

「Japanese History B」は日本を訪ねた19世紀後半の西洋人をテーマにし、イントロダ  
クション・幕末・小泉八雲(2回)・バジル チェンバレン(2回)・レポート・大日本帝国・イサ  
ベラ バード(2回)・アリス ベーコン(2回)・ロバート フォーチュン・復習の順で講義を行っ  
た。

授業の基本的な形は講義だが、履修生はプレゼンテーション、クラスワーク、ディスカッ  
ションも行った。教室内で英語を使い、英語の作文も宿題として読ませ、レポートを英語で書  
かせた。令和5年度の参加者は前期1名(留学生)、後期1名(日本学生)。

報告:アンデス・カールキビスト

#### 5. 日本事情A・B

全学共通教育科目「日本事情A・B」は留学生が専攻や学年の制限なく参加できる日  
本文化のプログラム。「日本事情A」(前期)は日本の地域史をテーマにし、イントロダク  
ション(1回)・陸奥(岩手県を中心に)(3回)・横浜(神奈川県)・土佐(高知県)・出雲(島根  
県)(3回)・筑前(福岡県)・琉球(沖縄県を中心に)(3回)・まとめと復習(1回)の順で、  
日本各地の歴史、風土、文化を説明した。授業の基本的な形式は講義だったが、参加者  
はプレゼンテーション、クラスワーク、ディスカッションも行った。

「日本事情B」(後期)は日本の世界遺産をテーマに。前期と異なり講義ではなく留学生  
はグループにて日本の世界遺産について勉強し、発表した(各自4回)。3回毎に古墳・古  
都・中世の城・自然を勉強し、発表を行った。レポート作成も2回あった。

この授業の履修を契機に留学生は専門以外の日本文化や歴史に触れ、日本の様々な事  
情をよりよく理解できた。令和5年度前期の参加者は2名、後期は11名。

報告:アンデス・カールキビスト

#### 6. 英語で学ぶ日本の文化

全学共通教育科目「Japanese Traditional Culture A・B」は留学生と日本の学生が組ん  
で、専攻や学年の制限なく参加できる日本文化プログラム。前期と後期に分かれ、日本の

いけばな(池坊)をテーマにする。

前期はイントロダクション・いけばなの歴史①(いけばな入門)・いけばなの歴史②(いけばなの伝統)・自由花(盛り花と投げ入れ)のお稽古(5回)・レポート・生花(しょうか)正風体のお稽古(5回)・復習の順で、後期はイントロダクション・いけばなの歴史③(日本いけばなの流派)・自由花のお稽古(5回)・レポート・生花新風体のお稽古(5回)・復習の順で、日本の文化のひとつであるいけばなを学び、体験した。

授業の基本的な形はお稽古であったが、留学生と日本の学生の交流の場ともなり、いけばなの歴史についても学びました。教室内では英語を使用し、日本の学生にとって英語の練習となった。花材は参加者が自己負担した(お稽古1回につき1千円、計10回のお稽古の花代は合計1万円)。

この授業履修を契機に、留学生だけでなく基本的に日本の学生も知らない日本文化や歴史に触れ、それらを深く勉強する機会となった。令和5年度の参加者は前期10名(日本人学生6名、留学生4名)。後期は12名(日本人学生10名、留学生2名)。

報告:アンデス・カールキビスト

## 7. Regional Studies F

Every 1st semester I teach Regional Studies F which focuses on SDGs. This class is taught in English and is open to all faculties and all students 2nd grade and older.

During this academic year I taught 30 students, 3 of whom were international students.

The class had 15 science and engineering students, 3 humanities students, 4 education student, and 8 agriculture students. The class focused on introducing each SDG

through teacher presentation and discussion. Each week one student group had to do a mini-intro presentation to introduce the SDGs we would cover that week. At the end of the semester each group had to present on one SDG and find examples in Iwate and find ways to volunteer or to learn more from organizations or NGOs here in Iwate.

報告:ピーターセン ジェイコブ

## 交換留学生「個別研究」報告

### 1. 概要

交換留学文系コースおよび日本語日本文化研修留学生の研究成果をまとめることを目的として「個別研究」を実施した。国際教育センター専任教員3名の指導・助言の元、それぞれの学生が日本に関するテーマについて研究し、口頭発表を行った。また、今年度前期には、総合科学研究科地域創生専攻の大学院留学生1名が「グローバルコミュニケーション」の代替科目として履修した。履修学生は、前期7月、後期1月にグローバルビレッジを会場に成果発表を行い、担当教員の評価により単位(2単位)を付与した。

### 2. 研究テーマ

前期 (発表会：2023年7月19日)	
所属	研究課題
総合科学研究科地域創生専攻 (タイ)	How to educate teenagers to choose the right skincare routine
韓国・群山大学	岩手大学生の韓国語学習に対する意欲の変化
日本語日本文化研修 (ベトナム)	ベトナムに対する日本人のイメージアップの方法

後期 (発表：2023年7月中旬に実施)	
所属	研究課題
中国・寧波大学	『羊をめぐる冒険』の中国語訳研究
タイ・サイアム大学	日本語の漫画と日本語学習についての外国人の意見
中国・曲阜師範大学	中国日本語学習者の発音における外国訛り、わかりやすさ、および明瞭さ
中国・曲阜師範大学	中国語と日本語の文法的異同－受身形－
中国・曲阜師範大学	日中大学生のSNS利用が睡眠時間に与える影響

### 3. 現状と今後の展開

今年度から、総合科学研究科地域創生専攻の大学院生の必修科目「グローバルコミュ

ニケーション」の代替科目として本科目を使用している。一方、交換留学生(文系コース)の学生は必修科目から選択科目に変更したため、履修学生は若干減少したが、学生が卒業論文等の予備研究として履修するケースが見られた。国際教育センター教員の負担が大きいため、交換留学生の受け入れ教員の協力も得て実施することも検討したい。

報告：松岡洋子

# 米国アーラム大学サイスプログラム関連事業報告

## 1. 2024 年度サイスプログラム概要

岩手大学では米国アーラム大学と 2003 年 8 月 11 日に学術協定を締結し、2005 年度には学生交流の覚え書きを交わした。本学はアーラム大学が毎年盛岡市に学生を派遣するサイスプログラム(SICE: Studies in Cross-Cultural Education)において以下の支援を行っている。

- (1) 日本語教育の提供
- (2) サイスプログラムの引率教員がサイス参加学生に対して授業を行う教室の提供
- (3) サイスサポーターズ(サイス参加学生を支援する本学学生)の招集

今年度のプログラムの概要は以下の通りである。

受け入れ期間:2024 年 8 月 22 日(木)~11 月 28 日(木)

参加人数:3 名

日本語クラスへの参加: 2024 年 10 月 7 日(月)~11 月 28 日(木)

## 2. 交流イベント

Dr. Taranee Cao (SICE プログラム引率教員リーダー) による特別講義が行われた。タイトルは“Reexamining Honorifics (敬語再考)”であり、伝統的な「敬語＝敬意」という固定観念に疑問を投げかけている点、敬語の使い方が状況や文脈によって柔軟に変わることや、単に敬語だけでなく他の言語的要素と組み合わせさせて礼儀や丁寧さが作られるという点がとても興味深かった。質疑応答でも多くの質問があり、参加者の関心の高さがうかがえた。

開催日時:2024 年 11 月 21(木) 17:00-18:00

## 3. English Camp

アーラム大学 SICE プログラムと岩手大学の共同事業として、English Camp を開催した。午前の活動は日米食文化交流を目的とし、午後は英語と日本語によるコミュニケーション活動を行った。午前中には、岩手の郷土料理であるひつつみとアメリカ料理のベーグルサンドイッチを作りながら、関連する英語表現を学んだ。午後は、SICE 学生が企画した英語学習活動や、花巻南高校生が考案した日本語ゲームを実施した。岩手大学生は、午前・午後の活動が円滑に進行するよう、運営を担当した。

日時:11月9日(土)10時から16時

場所:上田公民館

参加者:SICE 学生3名、盛岡市ALT6名、岩手大学学生8名、  
盛岡市中学生7名、花巻南高校生8名

#### 4. 学内留学

引率教員は、アールム大学教育プログラムの一環として、SICE 参加学生を対象に専門分野の講義を提供している。この講義は若干名の岩手大学生にも聴講の機会が与えられており、岩手大学ではこれを「学内留学」としてプログラム化している。2024年度は、理工学部4年生1名が受講した。

学内留学に参加した岩手大学生からは、講義がすべて英語で行われ、課題量も多く、学生中心型の授業を受けることで英語を使用する機会を多く確保できたとの報告があった。一方で、SICE 学生との親睦を深めるまでに時間を要したという声もあり、来年度は授業開始前に顔合わせなど、お互いを知る機会を設ける必要があると考えている。

#### 5. 不來方祭での活動

SICE 学生は不來方祭(大学祭)においてアメリカ菓子を調理・販売した。これを実現するため、岩手大学の有志学生が中心となり、SICE 学生の来日前から申請手続きや準備作業を支援した。また、不來方祭当日も岩手大学生が調理・販売をアシストした。

報告:星野ルーカス・山内亜美

## イーハトーブサマープログラム(IUIS)2024 実施報告

イーハトーブサマープログラム(IUIS)は、日本語と日本文化を学ぶ2週間の夏季プログラムである。海外協定校に在籍する学生が対象で、日本語入門と中級の2つのコースで募集し、参加者はキャンパス内の留学生向け学生寮(国際交流会館)で生活しながら、日本語授業のほか、日本文化体験やフィールドトリップを通じて、日本や岩手について理解を深める。

本プログラムは、令和4年度は試行として実施したが、コロナの影響でオンラインでの実施となった。令和5年度に続き、2回目の対面実施となり、農学系プランとスタンダードプランの、2つのプランで実施した。

### 1. スタンダードプラン

#### ◇プログラム概要

午前中は日本語授業、午後は日本文化体験、週末は県内でフィールドトリップを実施し、日本語のみならず日本文化や岩手について理解を深めることができるプログラム構成とした。

#### ◇実施期間

2024年8月19日(月)～9月1日(日) (13泊14日)

#### ◇主催

岩手大学国際教育センター

#### ◇実施場所

岩手大学、岩手県内

#### ◇宿泊先

岩手大学国際交流会館(シェアタイプ・個室)

#### ◇プログラム内容

(午前)日本語授業、(午後)日本文化体験、(土曜)フィールドツアー、(日曜)休み

#### ◇プログラム参加費

14万円/1人

#### ◇参加対象者

海外協定校に在籍する学生

日本語レベル:①入門/日本語未経験者、②中級前半/N3以上

#### ◇プログラム実施人数(計:9名)

・ Aコース(入門日本語/日本語未経験者):7名

内訳:パンヤピワット経営大学(タイ)2名、サンクトペテルブルク国立文化大学(ロシア)2名、高雄師範大学(台湾)1名、上海海洋大学(中国)1名、セントメリーズ大学(カナダ)1名

- ・ Bコース(中級前半話す日本語/N3以上):2名

内訳:セントメリーズ大学1名、サンクトペテルブルク国立文化大学1名

#### ◇単位について

単位は付与しない。参加者には修了証書を発行する。

#### ◇保険

来日前に各種海外旅行保険に事前加入が必要。

#### ◇参加費支払方法

クレジットカードでの支払い

#### ◇参加申込み方法

所属大学の国際交流担当者を通して、オンラインで申込フォームに記入

#### ◇参加申込締切日

2024年6月21日(金)(日本時間)

#### ◇アンケート調査結果

##### ■プログラム全体について

感想は良いものばかりで、「日本に留学したいという気持ちが強くなりましたか」という質問には全員が「はい」と答えた。スケジュールに関しても、全員が「とても満足」を選んだ。「サマープログラムに参加して良かったですか?」には、1名のみが「まあまあ良かった」を選んだ、その理由は、「教室での勉強が多すぎる」だった。

【感想】全体的にとっても良かった/スケジュールが素晴らしかった/多岐に渡り、日本でやりたかったことと、それ以上のことを体験することができた。授業からフィールドトリップやイベント、スタッフまで、すべてが完璧だった/日本文化について多くのことを学んだ。最初に日本語を学び、たくさんの良い友達ができるので、日本への興味がさらに高まり、日本への留学にもっと意欲的になった/日本語だけでなく日本の文化も勉強し、それはとても大切な瞬間だった。日本人や、他の国の人たちと出会い、素晴らしい街と快適な国際交流会館で生活した。みんな親切で、助けになろうとしてくれた 等

【要望】もう一日自由時間が欲しかった

##### ■参加の動機について(複数回答可)

「日本語の勉強がしたかったから」と「日本文化を体験したかったから」が一番多く、全員が選択した。次が「日本人と交流したかったから」に過半数が入り、「先生や他の人に勧められたから」「参加費が手ごろだったから」にも一票ずつ入った。

##### ■来日前の準備と案内について

全回答者が、開始前に事務局からメールで知らせた情報(日程や大学までの経路など)に

ついて「役に立った」と回答した。

#### ■日本語授業について

【感想】とても良かったが、3時間は多すぎる。レッスンが少し難しすぎた(Bコース)。だが全体としてはとても良かった。みんなとても上手に教えてくれて、楽しめた／日本語は課外活動として学びたかった／日本語のクラスは素晴らしい。坂本先生、佐々木先生、大高先生は皆素晴らしい先生だった。日本語のレベルという点では、コース A とコース B の間には非常に大きな差があったと思う。私の習熟度はこれらのコースの中間くらいで、コース B はかなり難しかったが、多くのことを学び、非常に貴重な機会だった／先生たちはとても忍耐強くフレンドリー／日本語のレッスンは面白くて役に立った。先生方は親切で、私たちが理解できないことをいつも説明してくれた。仲間や学生たちと、例えば私たちの国や文化、そして日本に関するさまざまな話題について話し合うのは楽しかった。

#### ■フィールドツアーについて

##### 【フィールドツアー全体について】

ほとんどが「とても満足」と回答。1 票のみ「満足」があった。一番印象に残った観光地として最も多かったのは、「遠野ふるさと村」と「津波伝承館」で、次が同率で「盛岡城跡公園」「中尊寺」「毛越寺」「平泉ガイドセンター」であった。今年はすべての見学先に票が入った。

#### ■日本文化体験プログラムについて

「特におもしろかったプログラムは何ですか」の項目では、「手づくり体験」と「浴衣」が最も多く、「茶道」には票が入らなかった。

##### 【日本文化体験プログラムで、他に体験してみたいこと】

○アクティビティを通じての語学学習

○花火大会

○歌舞伎、文楽や能についての講義

#### ■開講式・閉講式について

8月 20 日(火)【オープニングセレモニー・ウェルカムランチ】

セレモニー・ランチ共に「満足」が 1 票で、それ以外は「とても満足」を選んだ。

8月 30 日(金)【クロージングセレモニー・フェアウェルパーティー】

セレモニー・パーティー共に、全員が「とても満足」を選んだ。

#### ■国際交流会館について

住み心地を尋ねる質問に対して、全員が「とても満足」を選んだ。「追加してほしい備品」・「改善の要望」については特にコメントが無かった。

#### ■サマープログラムTシャツについて

全員が「とても満足」を選んだ。

#### ■ハンドブックについて

全員が「とても満足」を選んだ。

## 2. 農学系プラン

農学分野におけるレクチャー、研究センター・農場などの施設見学、平泉・遠野などのフィールドトリップ、日本語授業を実施した。

### ◇プログラム実施期間

2024年8月19日(月)～8月29日(木) (10泊11日)

### ◇主催

主催:岩手大学国際教育センター及び農学部

協力:サスカチュワン大学

### ◇場所

岩手大学、岩手県内

### ◇宿泊先

岩手大学国際交流会館(シェアタイプ・個室)

### ◇プログラム参加費

120,000円/1名

### ◇参加者

サスカチュワン大学に在籍する学生

### ◇プログラム実施人数

※学生:11名

※引率教員2名、TA学生1名 合計14名

### ◇単位について

単位は付与しない。参加者には修了証書を発行。

### ◇保険

来日前に各種海外旅行保険に事前加入。

### ◇参加費支払方法

クレジットカードでの支払い

### ◇参加申込み方法

引率教員からリストを送っていただき、学生はオンラインでの申し込み

### ◇参加申込締切日

2024年6月21日(金)(日本時間)

### ◇アンケート調査結果

### ■プログラム全体について

【感想】素晴らしかった！機会がある人にこのプログラムを勧めたい／うまく計画されていた／ペースが素晴らしく、カルチャーとサイエンスが上手くミックスされていた／全体的に素晴らしいと思った／国際園芸学に興味がある他の学生に強く勧めたい／予定どおりに着けたらもっと良かった／台風の影響で遅れたが、カリキュラムをこなし、夜に日本を体験することもできた。授業が長引いて自由時間が無くなることもなくて良かった／勉強とは関係のない授業(例えば、伝統的な日本の茶道)に参加できてとても楽しかった

■参加の動機について(複数回答)

一番多かったのが「専門分野の知識を高めたかったから」で、全員が選んだ。次が「日本文化を体験したかったから」、そのあとに同率で「日本人と交流したかったから」「日本語を勉強したかったから」「先生や他の人に勧められたから」が続き、一番少なかったのが「参加費が手ごろだったから」だった。

■日本語授業について

【感想】とても参考になった授業で、ついていきやすかった／講師は素晴らしかった／時間に余裕があれば、もっと授業時間を取りたかった／とても有益で、人前で話すのが苦ではなくなった／授業は1回だけだったが、(略)語学コースにトライする機会があったことはありがたい。

【要望】

日本語授業の時間数については、過半数が「ちょうどよい」を選んだが、「足りない」にも2票入った。

■フィールドツアーについて

【フィールドツアー全体について】

回答者全員が「とても満足」を選んだ。「印象に残った観光地(複数選択可)」でもっとも多く選ばれたのは「陸前高田津波伝承館」で、全員が選択した。次に多かったのは「遠野ふるさと村」だった。今年は票が入らない観光地は無かった。

■施設見学・講義について

回答者全員が「とても満足」を選んだ。

■国際交流会館について

過半数が「とても満足」を選んだ。「満足」と「普通」が1票ずつで、それ以下の評価はなかった。

【改善が必要な点】

ベッドメイキングの仕方を教えてほしい

引き出しの掃除(カビていた)と、バスルームの角の掃除

【追加してほしい備品】 ケトル／洗濯洗剤／ナイフ／ハンガー

■ サマープログラムTシャツについて

1名以外「とても満足」を選んだ。

■ ハンドブックについて

全員が「とても満足」を選んだ。

報告:国際課

## 多言語多文化交流空間 Global Village

### 1. 全体の総括

今年 9 年目となった多言語多文化交流空間 Iwate University Global Village (以下グローバルビレッジ)は、①グローバルイベント(国際交流・異文化理解・地域理解)、②日本語カフェ(日本語で留学生と会話、交流)、③All in English(英語での交流会)、④ニーハオ! 漢語、⑤Staff English Lounge を実施した。全学部からの参加者数がのべ 1447 名となった(表 1)。(参加者別の割合は図1参照)。キャンパスのグローバル化に資する国際交流・国際共修の場を構築している。

表 1 2024 年度グローバルビレッジ活動開催回数と参加者数

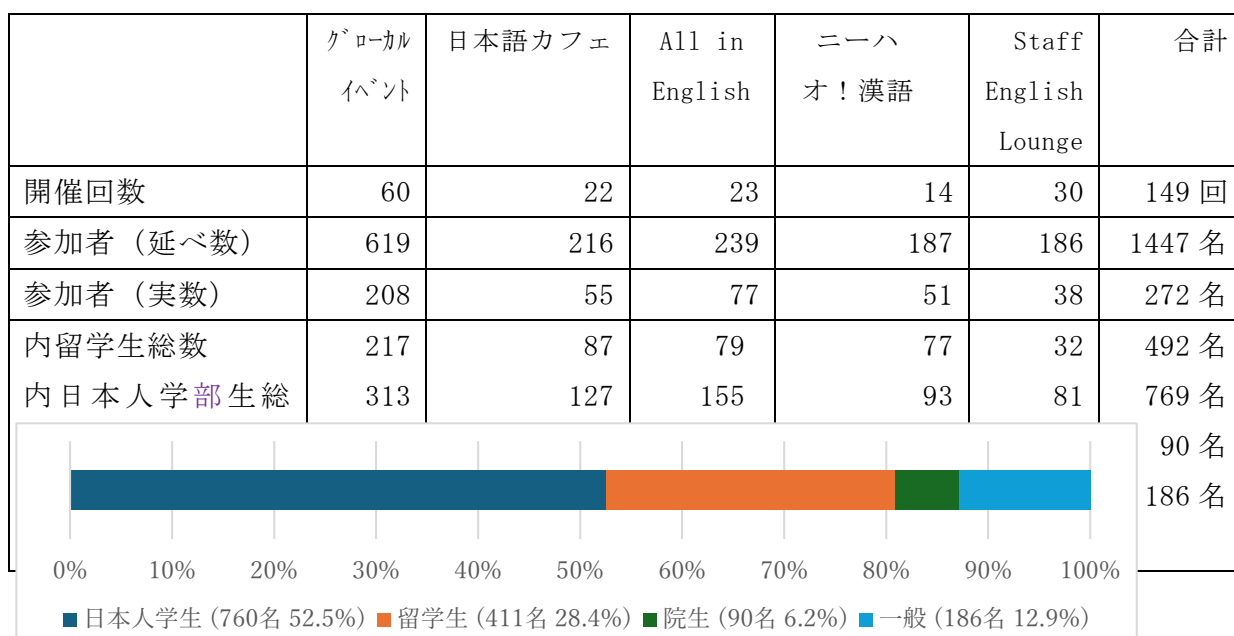


図1 グローバルビレッジ参加者割合

### 2. グローカルイベント

今年度は 60 のイベント(前期 19 回、後期 41 回)を実施した(参考資料:グローバルイベントの活動一覧参照)。

イベント内容は、英語力向上を目的とした複数回の講座や国際教養を深めるためのセミナー、日本文化を伝える生け花ワークショップなど多岐に及ぶ。新型コロナウイルスの影響でイベント実施回数自体は減少したものの、一部をオンライン開催するなどの対策がな

された。

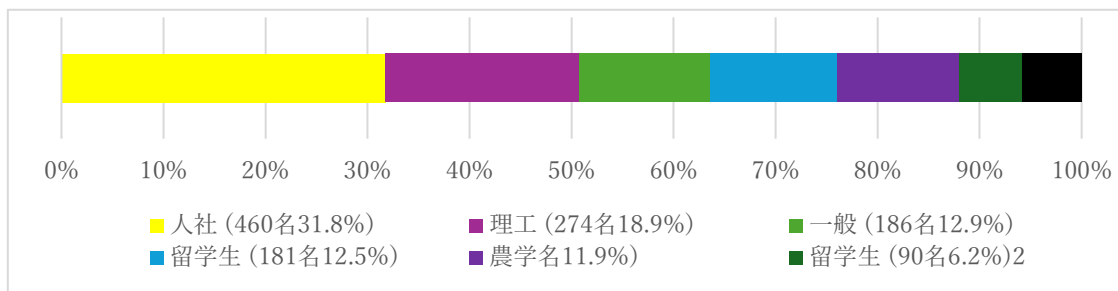


図2 グローバルビレッジイベント参加所属別割合

### 3. 日本語カフェ

留学生と日本人学生が集い、日本語で交流するという趣旨の本事業は、今年度22回行われ、参加者延べ数はのべ216名で実数は55名であった(図3)。

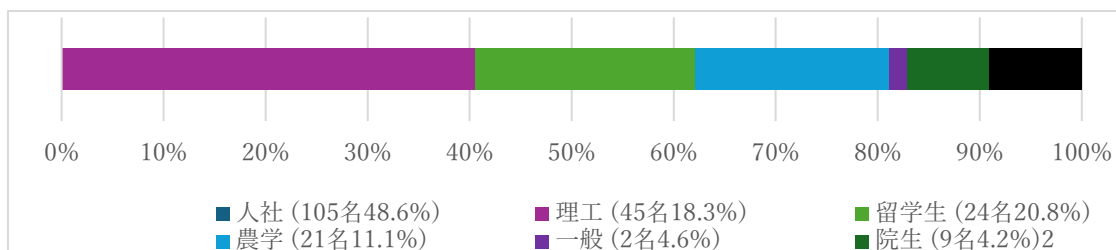


図3 日本語カフェ参加者所属別割合

### 4. All in English

英語のコミュニケーション能力の向上を目的としたAll in Englishは前、後期合わせて23回開催され、239名で実数は77名が参加した。(図4)

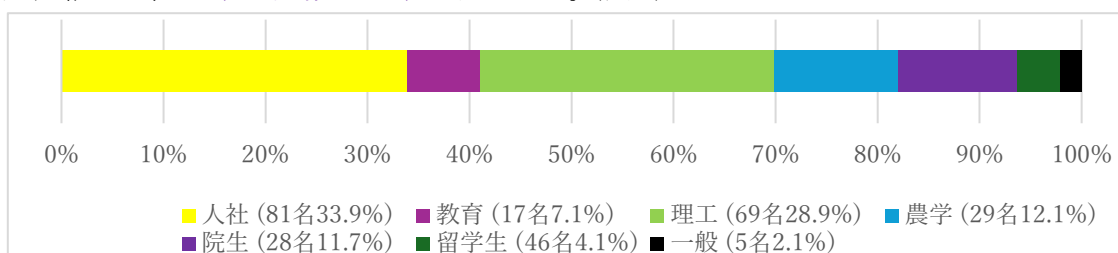


図4 All in English 参加者所属別割合

### 5. ニーハオ！漢語

初心者向けの中国語のコミュニケーション能力の向上と中国留学生と交流ができる機会を目的としたニーハオ！漢語は前、後期合わせて14回開催され、187名で実数は51名が参加した。(図5)

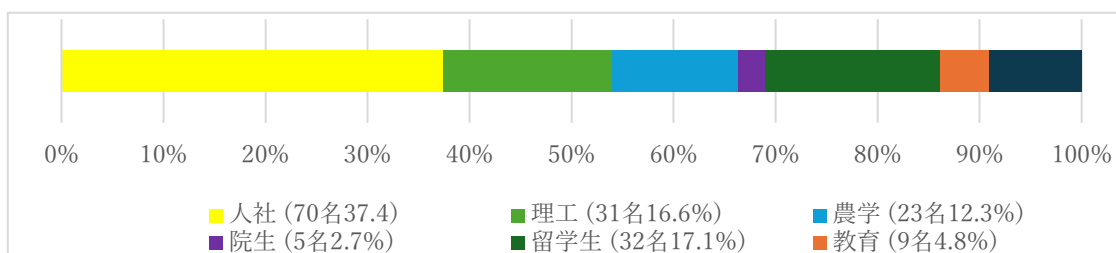


図5 ニーハオ！漢語参加者所属別割合

## 6. Staff English Lounge

英語のコミュニケーション能力の向上を目的とした教職員及び一般の方向けのStaff English Loungeは前、後期合わせて30回開催され、186名で実数は38名が参加した。(図6)

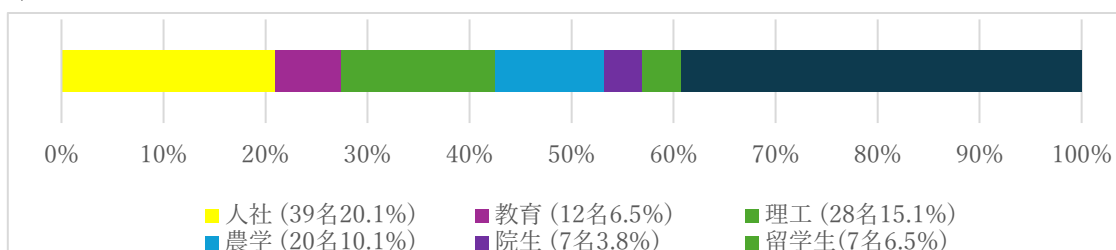


図6 Staff English Lounge 参加者所属別割合

## 7. まとめ

担当者の業務内容の改造の関係で全体的のイベント数が減ったが、昨年度の参加者実数と比べると、あまり減らされていない。昨年度までの基盤と学生スタッフの育成の効果が発揮され、グローバルビレッジは本学学生の自主的な国際教育の場となった。

### 参考資料 グローカルイベント活動一覧

日時	企画名
前期	
4/22	GV 説明会
4/25	Welcome Party
4/30 ~ 7/23	生け花教室 全7回
6/5 ~ 6/26	Board Games in English 全4回
6/13	ベトナム紹介:料理
6/24	English Speech Contest
6/27	SDGs 講演会イベント
6/28	ベリーダンスワークショップ
7/12	和食 in Morioka

7/19	個別研究発表会
後 期	
10/7	GV 説明会
10/7	Welcome Party
10/11	Meet the New Teacher
10/15 ~ 1/21	生け花教室 全5回
10/22	Study Abroad in America
10/24	Explore Morioka
10/25 ~ 11/22	Let's Play Games 全2回
10/30	Halloween Party
11/1 ~ 12/16	ベリーダンスワークショップ 全2回
11/5	センパイトーク
11/7	TOEFL iBT 勉強会
11/12 ~ 11/14	英語でチャレンジ！写真撮影ワークショップ 全2回
11/13	Country & Culture: Iceland
11/14 ~ 12/19	English Room 全4回
11/15	トビタテ！留学 JAPAN 概要説明会
11/15	農業教育資料館ツアーとピアノの夕べ
11/18	Hi こちら韓国・群山大学からアンニョンハセヨ！
11/21	Hi こちら西北大学からニーハオ！
11/21	SICE 引率教員による特別講義
11/21	Thai Event & Workshop
11/22	トビタテ！留学 JAPAN 申請書執筆セミナー
11/25	Hi こちらテキサス大学・アーラム大学(米国)
12/5	Country & Culture: France
12/12	難民映画祭パートナーズ上映会&ワークショップ
12/13	Historical City: Boston
12/20	Music Abroad: Iceland
12/20	Winter Holiday Party
12/23	内閣府青年国際交流事業説明会
1/14	書き初めワークショップ・カルタ
1/29	日本語研修コース修了発表会

報告:国際課

## 令和6年度新入生オリエンテーション報告

### 1.実施したオリエンテーション等

#### (1)留学生オリエンテーション

国際課及び保健管理センターから、新入生に必要な手続き及び日本での生活や履修登録等について説明を行った。また、盛岡東警察署に生活上の注意点に関する説明をお願いした。説明は国際課の職員が日本語で説明を行い、それを国際教育センター及び国際課の教職員が英語及び中国語に逐次通訳を行った。

#### (2)国際交流会館オリエンテーション

入居者全員を対象に国際交流会館での生活上のルール及び寄宿料等についての説明を行った。説明後は入居書類の記入を一斉に行った。

#### (3)チューターオリエンテーション

令和6年度に留学生チューターを行う学生に対して、制度の概要説明、注意事項及び手続きについて説明を行った。

上記3点のオリエンテーションに加えてキャンパスツアーを実施し、岩手大学キャンパス内の各施設の位置確認や利用方法の解説を行った。

### 2.各種オリエンテーション等の実施日程等

#### 2.1 前期

##### (1)留学生オリエンテーション

日時:令和6年4月3日(水) 13:00~14:10

会場:理工学部 銀河ホール

対象者:49名

##### (2)交換留学プログラム開講式

日時:令和6年4月4日(木) 10:00~10:30

会場:学生センターB棟1階 多目的室

対象者:18名

##### (3)国際交流会館オリエンテーション

日 時:令和6年4月4日(木) 10:40~12:00

会 場:学生センターB棟1階 多目的室

対象者:41名(国際交流会館新規入居者)

#### (4) チューターオリエンテーション

日 時:令和6年4月23日(火) 15:30~16:15

会 場:学生センターB棟2階 GB21講義室

対象者:66名

## 2.2 後期

### (1)留学生オリエンテーション

日 時:令和6年10月1日(火) 13:00~14:10

会 場:理工学部 銀河ホール

対象者:38名

### (2)交換留学プログラム開講式

日 時:令和6年10月2日(水) 10:00~10:30

会 場:学生センターB棟1階 多目的室

対象者:16名

### (3)国際交流会館オリエンテーション

日 時:令和6年10月2日(水) 10:50~12:10

会 場:学生センターB棟1階 多目的室

対象者:31名(国際交流会館新規入居者)

### (4) チューターオリエンテーション

日 時:令和6年8月1日(木) 及び2日(金) 15:20~16:30

会 場:学生センターB棟2階 GB21講義室

対象者:61名

報告:国際課

## 海外留学支援事業

海外の大学との学生交流や様々な海外研修プログラムについての情報提供の場として以下の事業を実施した。

### 1. ICT

Our department manages and maintains the ICT platform of Moodle.

As of 2023, all part-time and full-time English teachers were required to use Moodle for English communication classes. This usage of Moodle was successfully implemented by the teachers with little or no issues. In 2023 year we also piloted a Moodle add-on called Poodl, it was a very useful tool, but we decided to not buy it in 2024. In 2024 we had data issues due to the servers not having enough space to handle all the images being uploaded. Some workarounds have been implemented, mostly related to the amount of time classes are backed up.

Currently Moodle is mostly used for English classes. Every year we enroll 1st year students into the system, which last year was 1,523 students. We have 350 courses, which is a combination of active courses, test courses, repositories, or other special situations. There are 6,537 users enrolled in Moodle. There are more users than students on campus because we delete users after 7 years, there are repeat users (undergrad and graduate), and we also teacher accounts.

報告:ピーターセン ジェイコブ

### 2. SPASE

I manage SPASE (Special Program Advanced Science Engineering) English presentation training. During R6 academic year we had 6 students in the spring semester and 5 students in the fall semester. These sessions are 1-hour English speech preparation with the student and teacher.

報告:ピーターセン ジェイコブ

### 3. Super English, Step-up English, Foundation of English

Step-up English is offered as a basic English language training course for students aiming to study or train abroad, and Super English is offered to students who have completed this course and reached a certain level, with the aim of enabling them to study abroad on the TOEFLiBT®. Step-up and Super English classes are offered for 11 weeks per semester and are open to students who meet certain English language proficiency requirements.

Table 1. Number of students attending (graduate students included in the number of

		令和6年度前期					令和6年度後期				
SUE	所属学部	人 社	教育	理工 学	農 学	合 計	人 社	教育	理工 学	農 学	合 計
	人数	3	0	3	0	6	3	2	1	2	8
SE	所属学部	人 社	教育	理工 学	農 学	合 計	人 社	教育	理工 学	農 学	合 計
	人数	2	0	1	0	3	0	0	3	1	4

#### Foundation of English

Foundation of English is broken down into two sections. Normal Foundation of English and study abroad. Normal Foundation of English consists of students coming to visit weekly outside of English Time. Study abroad Foundation of English focuses on preparing students before they go to another country for study.

The faculty breakdown for Foundation of English:

- Education 0
- Humanities 5
- Science & Engineering 4
- Agriculture 1
- Veterinary 1

The faculty breakdown for study abroad Foundation of English:

- Education 0
- Humanities 3
- Science & Engineering 0
- Agriculture 0

- Veterinary 1

報告:ピーターセン ジェイコブ

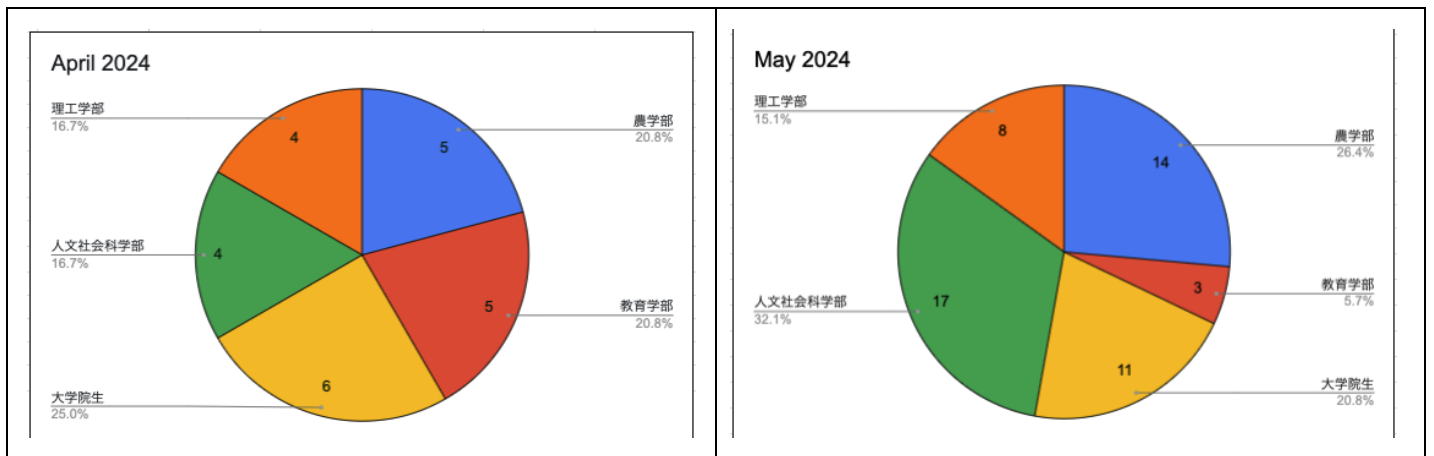
#### 4. English Time

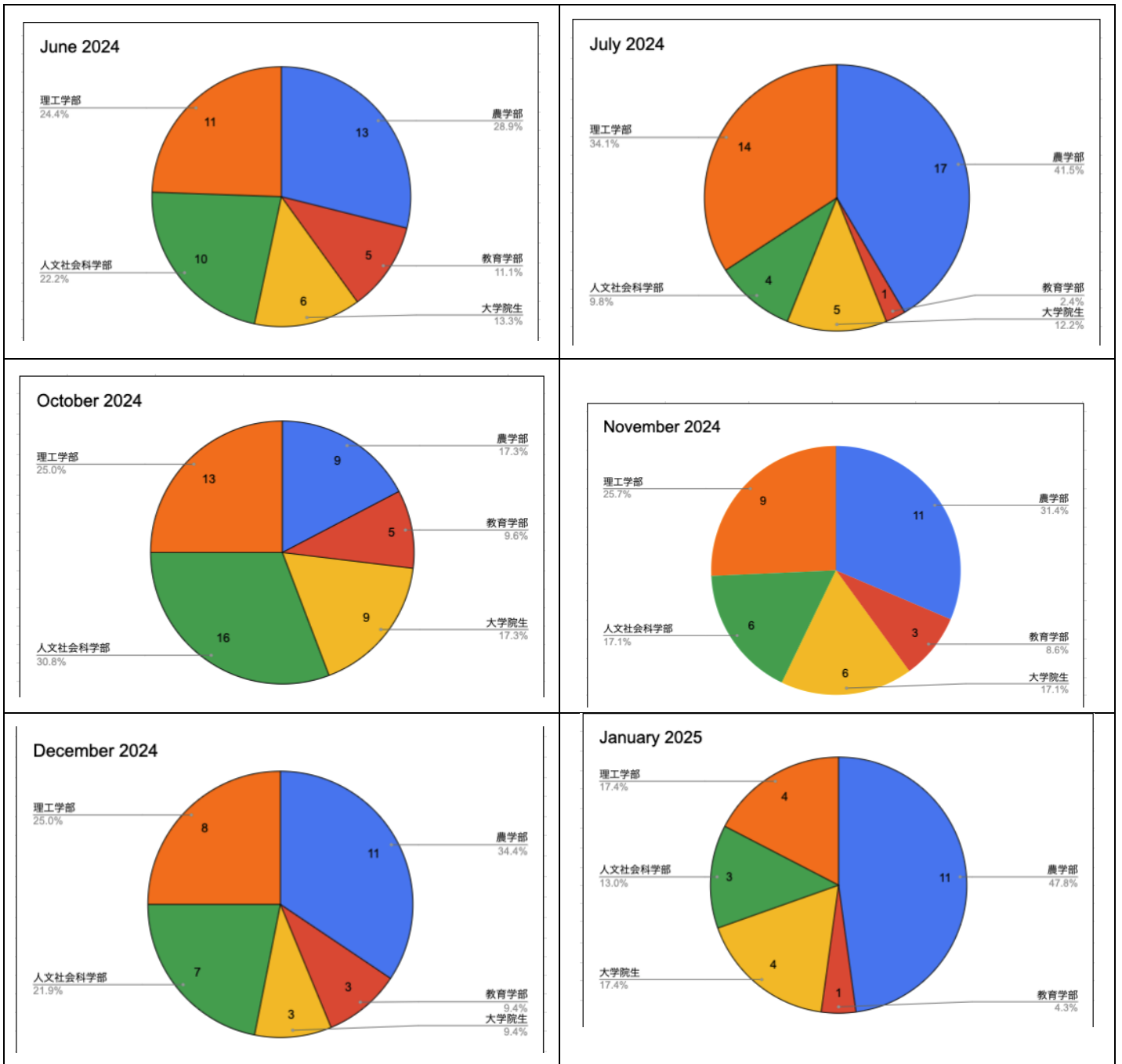
R6 年度前期は下記の日程で、全回(576 コマ)行われた。

English Time			
開催回数	576	理工学部	71
人文社会学部	67	農学部	91
教育学部	26	大学院生	50

The

following pages shows graphs with number of students and which faculty for each month.





報告:ピーターセン ジェイコブ

## 5. 留学個別相談

留学を希望する学生が見通しを立てやすいように、個別相談を提供している。留学相談予約方法については、国際課の掲示板や岩手大学国際交流ホームページで周知している。1回の相談は1時間から1時間半程度で、留学の目的、種類、計画、留

学準備、奨学金申請、語学勉強方法について、学生のニーズに合わせて情報を共有している。令和6年度参加学生は合計33名であった。学部内訳は、農学部15名、人文社会科学部12名、理工学部4名、教育学部2名である。学年は、1年生11名、2年生15名、3年生4名、4年生1名、無回答2名であった。留学相談を行う際に、事前アンケートを実施している。集計した内容は以下の通りである。

項目	回答1	回答2	回答3	回答4
留学のタイプ(複数回答あり)	北米交換留学(9)	短期語学研修(10)	短期課題解決型研修(6)	未定(7)
留学の目的(複数回答あり)	語学向上(23)	英語を通してトピック知識を深める(17)	英語以外の語学力(8)	英語以外の言語でトピック知識を深める(3)

表内の数値は回答数を示す。

## 6. トビタテ留学 JAPAN 申請書執筆セミナー開催

トビタテ!留学 JAPAN 奨学金の申請では、学生が自ら立案した留学プログラムを通して、どのように成長し、その成長が日本や日本の企業・組織へどのように貢献するのかを説明することが求められている。申請書には、情報収集、論理展開、自己アピールといった基本的なスキルに加え、審査員を引き込む描写力や、情熱を文字に乗せる執筆力も必要となる。

これらを踏まえ、私は4回のセッションを企画・実施した。セミナーは受講者同士が情報共有・自己開示できるよう、インタラクティブ方式で行った。受講者は教育学部1名、理工学部4名の計5名で、全員が3年生であった。また、各回の間には一定の期間を設け、学生がフィードバックを留学計画に反映しやすいように配慮した。

日程:令和6年11月22日(17:00-18:30)、令和6年12月13日・20日(16:50-19:00)、令和7年1月24日(16:50-19:00)

報告:山内亜美

## 7. 国際月間

### 7.1 概要

岩手大学では、本学の学生・教職員及び一般市民に対し、国際理解力の増進と国際交

流への関心度を向上させ、各事業の波及効果の上昇を図ることを目的に、毎年秋に「岩手大学国際月間-Iwate University International Month-」を開催している。

なお、国際月間期間中のグローバルビレッジイベントは、国際月間イベントとして開催する。【期間】 11月1日（金）～11月29日（金）

## 7.2 実施行事一覧

月日	時間	プログラム	場所（学内）
月間中		海外派遣・国際交流プログラム参加体験展示/動画放映	国際課隣フリースペース
11/1-		オンデマンド型海外留学体験報告会	岩手大学国際交流 YouTube
11/1	17:00-18:00	ベリーダンスワークショップ	多目的室
11/5	12:20-12:50	センパイトーク	グローバルビレッジ
11/6, 11/27	12:20-12:50	ニーハオ！漢語	多目的室
11/7, 14, 21, 28	12:20-12:50	にほんごカフェ	グローバルビレッジ
11/7	17:00-18:30	TOEFL iBT 勉強会	グローバルビレッジ
11/11, 11/18, 11/25	17:00-18:00	Public Staff English Lounge	TOVLAB
11/12	15:00-16:00	英語でチャレンジ！写真撮影ワークショップ	グローバルビレッジ及び野外
11/12, 19, 26	12:20-12:50	All in English	グローバルビレッジ
11/13	12:20-12:50	Country & Culture: Iceland	グローバルビレッジ
11/14	17:00-18:00	Evening English	グローバルビレッジ
11/15	12:20-12:50	トビタテ！留学 JAPAN 概要説明会	グローバルビレッジ
11/15	13:30-15:00	農業教育資料館ツアーとピアノの夕べ	農業教育資料館
11/18	17:00-18:00	Hi こちら韓国・群山大学からアンニ	多目的室

		ヨンハセヨ！	
11/19	15:30-18:30	Ikebana Workshop	グローバルビレッジ
11/21	13:40-14:40	Hi こちら西北大学からニーハオ！	グローバルビレッジ
11/21	15:30-16:30	Thai Event & Workshop	グローバルビレッジ
11/21	17:00-18:00	米国・アーラム大学 特別講演会	グローバルビレッジ
11/22	13:00-14:30	Board Games Event	グローバルビレッジ
11/22	17:00-18:30	トビタテ！留学 JAPAN 申請書執筆セミナー	グローバルビレッジ
11/25	12:20-12:50	Hi こちらテキサス大学・アーラム大学（米国）	グローバルビレッジ
11/26	15:30-16:30	生け花体験教室	グローバルビレッジ
11/28	17:30-19:00	English Room	グローバルビレッジ

報告:国際課

# IHATOVO グローバルコース・グローバルマイレージ報告

## 1. 概要

国際教育センターでは、岩手に顕在化するグローバルな課題を理解し、解決に貢献し、発信する力の養成をめざし、「IHATOVO グローバルコース」を運営している。このコースの参加によって「知識・探求力」、「コミュニケーション力」、「人間力」を向上させ、地域社会、国際社会で活躍する人材を育成する。

## 2. コースのコンセプトと構成

コースは、A. 外国語、B. コミュニケーション、C. 国際教養、D. 実践の4つのカテゴリーに分類された授業および課外活動で構成されている。各授業、活動に参加すると、Global Mileage が付与される。A～Dの中から3つ以上のカテゴリーの授業を受講もしくは課外活動に参加した上で、基準以上の Global Mileage を獲得した者には IHATOVO グローバルコース履修認定証を授与する(ゴールド 2000 マイル以上、シルバー達成 1200 マイル以上、ブロンズ達成 800 マイル以上獲得)。

## 3. 実施状況

令和6年度にマイレージを取得した学生数は2164名であり、全学生(4670名)の46.3%だった。各学部別のマイレージ取得状況は以下の通りである。

<認定証対象者>(平成28年度からの積算数)

	人文社会	教育	理工	農	計
Gold	13	0	5	5	23
Silver	10	0	10	4	24
Bronze	15	0	9	9	33
計	38	0	24	18	80

## 4. 表彰

グローバルマイレージ最上位のゴールドに認定された学生には、学長から認定書の授与及び海外研修参加費や外国語検定試験に係る検定料等の補助として岩手大学イーハトーヴ基金から奨学金が支給される。2024年度は、6月6日に2名の学生がゴールド認定証を授与された。また、本年度から、ゴールド又はシルバーに認定された学生に対して、デジタル認定書となるオープンバッジの授与を開始した。本年度は、ゴールド達成者6名とシルバー達成者6名にオープンバッジを授与した。

報告:国際課

## フィールドスタディ

### 1. フィールドツアー「十和田市現代美術館、奥入瀬溪流」

岩手大学留学生を対象に東北地域の観光地・文化施設等への訪問を通して、留学生相互の交流促進と東北地域の風土・歴史・文化への理解を深めることを目的とし実施した。これまで各年度に一度のペースで青森県の十和田市、宮城県の松島、岩手県の陸前高田市へのフィールドツアーを実施しており、令和6年度は青森県の十和田市を選定し、7月6日に執り行った。参加した40名は十和田市現代美術館で多様な現代美術作品から刺激を受けるとともに、奥入瀬溪流の散策を通して北東北の自然の雄大さ感じることができ、大変有意義なフィールドツアーであった。

### 2. フィールドスタディ「スキー・スノーボード in 岩手」

八幡平リゾートパノラマスキー場にて、フィールドスタディ「スキー・スノーボード in 岩手」を2回実施した。1回目は、令和7年1月16日に実施し21名が参加した。2回目は、令和7年2月10日に実施し16名が参加した。本事業は岩手大学で学ぶ外国人留学生が、母国でほとんど経験することがないスキーまたはスノーボードを通じて、雪国である岩手の冬に親しむことを目的に実施している。

報告:国際課

## 地域日本語教育支援事業報告

### 1. 事業趣旨

外国ルーツの住民の日本語課題や受入れ住民の多文化社会理解課題の解決の一助とすることを目的として、地域日本語教育支援事業を平成17年度から継続実施している。

### 2. 事業内容

#### 2.1 子どもの学習支援事業

##### ① いわて多文化子どもの学習支援連絡協議会総会

日時：2024年7月5日（金）14時30分～15時30分

場所：岩手大学学生センターB棟1階多目的

構成員：

岩手県教育委員会学校教育室、盛岡市教育委員会、二戸市教育委員会、一関市教育委員会、岩手県国際交流協会、NPO法人I can（一関）、いわて多文化子どもの教室むつみっこクラブ、岩手大学国際教育センター（事務局）

内容：

協議・意見交換

・2023年度事業報告および2024年度事業計画（情報交換、研修、支援活動、交流活動等）が了承された。

・各構成員からの現状・活動報告があり、日本語指導等が必要な子どもが増加傾向にあり、支援体制に課題があることなどが話し合われた。

・事務局（岩手大学国際教育センター・国際課）の体制が来年度から変更となることに伴い、本協議会は本年度を持って終了することが伝えられた（2025年6月にメール会議にて了承済み）。

##### ② 岩手県帰国・外国人児童生徒等教育関係者研修会

（岩手県教育委員会・岩手大学国際教育センター・いわて多文化子どもの学習支援連絡協議会共催）

日時：2024年11月5日（火）9:30～16:30

場所：岩手県立総合教育センター 4階大会議室

参加者：

各教育事務所、日本語指導担当教員、市町村教育委員会、日本語学習支援団体等

内容：

行政説明「国及び県の動向」（岩手県教育委員会義務教育課主任指導主事 熊谷康弘氏）

協議1 学校「本校における日本語指導・支援体制について」

行政「自治体における就学支援体制、管下の学校に対する支援体制、訪問体制について」

関係機関「対象児童生徒、学校への支援について」

## 協議2 地区別情報交換

情報交換(地域ごとのグループによる状況、課題など)

講義・演習「DLA を活用した自校の教育支援の充実に向けて」(松岡担当)

### ③日本語指導が必要な児童生徒個別支援活動

i. 県内の小中学校からの要望に対応して、学生によるオンライン、対面の個別日本語・教科学習支援活動を実施した。学生には、アルバイト謝金を支給し、責任をもって活動に関わるよう動機づけた。

期間:2024年4月～2025年3月

対象:5名(盛岡市立上田中学校2名、山田中学校、豊間根小学校、金ヶ崎小学校)

ii. 岩手県教育委員会外国人児童生徒指導モデル事業(久慈市教育委員会・久慈中学校)に協力、助言を行った。

## 2.2 地域日本語教育事業

### ①日本語学習支援ネットワーク会議 in 仙台

日時: 2024年12月1日(土) 10:00-15:00

場所: 東北大学

主催: 日本語学習支援ネットワーク会議 in 仙台実行委員会、北海道・東北ブロック日本語教師養成実施機関連絡協議会

協力: 岩手大学国際教育センター

内容: 1)宮城県内の体制整備、2)大崎市日本語学校の紹介、グループセッション

### ②なか東北地域日本語教育専門人材養成講座

岩手、山形、秋田の3県の大学、地域国際化協会の協定に基づき、地域の日本語教育人材育成講座を実施した(2022年度から実施。今年度が最終年度)。オンライン講座は3県合同、対面実習は各県で実施した。受講修了者には修了証を発行し、各県の人材バンク(岩手県では岩手県国際交流協会日本語サポーター)に登録し、依頼に応じて有償で日本語教育・学習支援を行っている。

協定締結団体:岩手大学国際教育センター、国際教養大学専門職大学院グローバル・コミュニケーション実践研究科、山形大学学士課程基盤教育機構、公益財団法人岩手県国際交流協会、公益財団法人秋田県国際交流協会、山形市国際交流協会、特定非営利活動法人ヤマガタヤポニカ

講座期間:

第1クール	基礎編	(20 単位時間)	5月20日～6月15日
第2クール	「学習者を知る」編	(16 単位時間)	6月19日～7月10日
第3クール	実践編	(40 単位時間)	7月13日～8月7日
対面実習(岩手版)		(16 単位時間)	8月21日～9月11日
オンライン実習		(16 単位時間)	10月30日～12月18日

場所: オンライン(3県合同研修)+岩手大学学生センターB棟(対面実習)

受講者: 岩手・秋田・山形の日本語学習支援者等 計23名(うち岩手6名)

3年計画で開始した本事業は今年度で終了した。継続の要望もあるが、担当教員の負担、受講者の確保、修了後の活動等の課題があり、今後の人材育成の方法、体制について検討が必要である。

報告:松岡洋子

## 日本留学フェア及び外国人学生のための進学説明会等

岩手大学ビジョン2030アクション「戦略 5: 国際社会で活躍できるグローバル化に対応した能力を身に付けた高度専門職業人を育成する」の外国人学生受け入れ推進において、「サマープログラムの提供及び交換留学(IU-SEP)を充実させ、その参加学生の本学上級課程への進学を促進する。これらの取り組みにより、令和12年度の留学生総数を、令和元年度に比べて約10%増加させる。」と目標を掲げており、それに関連し国内外の広報活動を実施しているところである。

主に、海外で行われている日本留学フェア及び国内の外国人学生のための進学説明会、協定校訪問、卒業留学生との懇談会開催等を通じて、本学の認知度を向上、優秀な留学生の獲得、卒業留学生とのネットワーク構築のための広報活動を行っている。

令和6年度の広報活動広報計画について、下記のとおり報告する。

### 1. 国内

#### 1.1 外国人留学生のための進学説明会(東京)

主催: 独立行政法人 日本学生支援機構(JASSO)

日時: 令和6年6月29日(土) 9時～16時

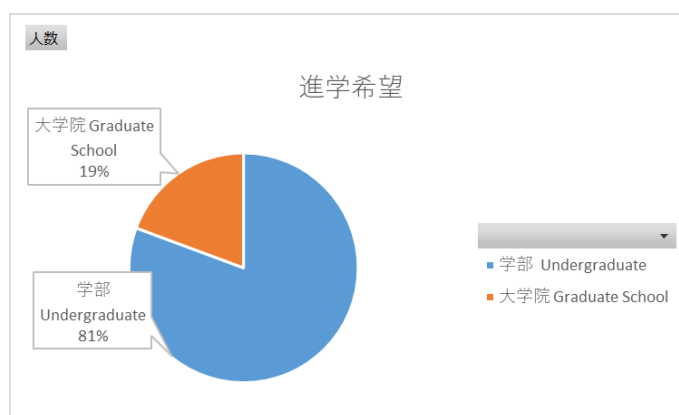
場所: 池袋サンシャインシティ文化会館2F 展示ホール D

参加者: 入試課 大矢、国際課 ルーカス、国際教育センター ピーターセン

岩手大学ブース訪問者: 40名程度(うち中国人7割、ベトナム人2割、その他1割)

※ほぼ全員が日本語学校に通っている人

国籍	人数
マレーシア	2
インドネシア	2
タイ	1
ベトナム	2
モンゴル	1
韓国	1
中国	21
日本	1
<b>合計</b>	<b>31</b>



◇質問された内容(※だいたい昨年度の報告書と一緒にした)

(1) 試験関係

- ・入試日程
- ・入学者選抜方法(試験内容、日本留学試験の最低点があるかどうか。)
- ・試験時に英語成績が必要かどうか
- ・過去問はもらえるか

(2) 必要経費

- ・授業料、入学料の金額
- ・1か月にかかる生活費

(3) 奨学金

- ・奨学金の種類がどれくらいあるか

(4) その他

- ・英語で卒業できる学部の有無について
- ・取得できる学位に記載される名称が何か(2人くらい質問してきました。母国に帰って就職する際に必要なのかなと推察しましたが、予想外の質問でした。)

◇総括

(1) 説明会の流れと内容

- ・アンケートは入力に時間がかかるので、対応の最後に入力してもらおうと良い。入力してもらっている最中、プレゼント(B6 ノート・岩手大学資料集・バッグ)を用意すると良い。
- ・質問がなく、とりあえずブースに座る学生も一定数いた。その際は、「岩手大学資料集」を基に基本的な情報は提供をした。
- ・学部進学希望者の半分位が英語で卒業できる学部の有無について聞いてきた。
- ・日本留学試験(EJU)の点数と出願方法を知りたい方が多かった。

(2) ポスター

- ・今回は、交通情報とスキー研修のポスター以外はあまり使わなかった。
- ・持参した掲示物が多くて、すべてを掲示できなかった。
- ・大き目のキャンパスの写真をあれば、より魅力的と感じた。
- ・25年の改組に向けて、掲示ポスターは更新する必要がある
- ・学部、研究科紹介は、詳しい学科名等は表示せず、学部・研究科のみの表示でも良いと思われる。(参加者は主催者から配布される大学紹介をみてブースを訪れるため)

### (3) 今度向けの検討

- ・名刺は念のため持って行った方がよい。(ブースに来る人は留学生なので、必要ないかと思っていましたが、JASSO のスタッフやその他ブースに挨拶に来てくれました。)
- ・質問内容も文系に関する質問が思ったより多かったため(経済を勉強したい、アジア史を勉強したい等)、人社の先生も参加してもらえると、来訪者がより満足できる情報を知ることができるのではないかと感じた。

## 1.2 ECC 主催進学説明会(大阪)

日時: 令和6年7月27日(土) 13:00~15:30

場所: ECC 国際外国語専門学校 2 号館1階

参加者: 入試課 小笠原 国際課 伊藤

### ◇設営

- ・ブース後ろの壁に大学概要がわかるポスターを貼る(学部、学科等の案内)
- ・机にテーブルクロスをかける(緑色、岩手大学ロゴ入り)
- ・受付用 QR コード設置
- ・資料組み
- ・岩手大学概要(アウトライン)
- ・岩手大学資料集(入試課作成・印刷)
- ・お土産ノート
- ・トートバッグ(ベージュ)
- ・学部(人社、理工、農)パンフレット

※理工 30 部(2 種)、人社 15 部(1 種)、農 5 部(2 種)

※参加者が希望する学部のパンフレットを提供

- ・12 時 50 分までの受付だったので、ブース設営、資料準備等のため 12 時集合とした。  
(開始時刻の 20 分前(12 時 40 分頃)に既にブース来訪があったので、早めに設営を済ませておいてよかった)
- ・Wi-Fi 使用の案内があった

### ◇参加者への案内

- ・ブースへ来た留学生は合計 14 人(先方が気を遣って留学生に参加を促してくれた可能性あり)
- ・2~5 名をまとめて同時に説明を行った
- ・ほとんどが理工学部志望、農学部、人社はそれぞれ 2 人程度(詳細はグラフのとおり)
- ・留学生への説明の合間に、ECC 職員からの質問対応もあった

①岩手大学についてどれくらい興味があるか(知っているか)確認

岩手大学を志望しているという生徒はいなかったが、「岩手」を知っている、「岩手」に旅行したことがある、という生徒も数人いた。ほぼ全員が「岩手大学を受験したい」というより、「興味ある学部に進学したい」という雰囲気。

②希望している学部と国籍について質問

ミャンマー出身の生徒が7名で最多。ほか、ベトナム3名、中国、台湾、インドネシア、ネパールがそれぞれ1名ずつ。希望学部は理工学部が最多で、農学部(生命や動物)が2名、獣医学部が1名、人文社会科学部が2名。

③ ①に応じて概要説明、質疑応答

- ・研究内容(どういったことを勉強できるか、研究できるか)は研究者総覧を案内
- ・入試(私費外国人留学生選抜)に関しては
- ・最新の情報は11月の公表予定の募集要項で確認してほしい
- ・理工学部は書類審査のみであること(ただし、日本留学試験において必要な科目や点数などをよく確認してほしいこと)をメインに説明。
- ・今年度のスケジュール(募集要項公表～合格発表まで)を説明
- ・国際課から留学生支援や学生生活について説明
- ・チューター制度
- ・フィールドツアー
- ・国際交流会館(料金・部屋について)
- ・グローバルビレッジの活動(イベント紹介)
- ・奨学金、授業料関係

④質疑応答の後、受付用 QR コードを読み込んでもらいアンケートに回答してもらった。

(後ろで待っている学生がいた場合は、待っている間に QR コードを渡して回答してもらった)

※集計したところ未回答が3名いた

【寄せられた質問等】

(留学生から)

- ・人社(理工学部や農学部と違い)は点数を公表していないのか。これではチャレンジしづらい。
- ・英語で勉強できませんか?(英語は得意だが、日本語は難しい)  
少なくとも学部の授業はほとんどが日本語で行われ、英語のみで行っている授業は少ないので、ある程度の日本語能力が必要。大学院では英語で実施する授業もある。
- ・岩手、盛岡の言葉(方言、訛り)は難しいですか?  
盛岡は多少のイントネーション、アクセントの位置の違いはあるが、関西に比べると標準語に近いので、今勉強している日本語、言葉をそのまま使える旨を回答。

・ほぼ全グループから質問のあった事項。母国で学習してきた日本語が、方言により関西圏において通用しない場合がある様子だった。中には、青森県の方言について知っている学生もいて、岩手は隣県であるので方言が難しいのでは？と懸念している者もいた。

・馬術部に入部したい

動物科学希望の学生からの質問。大学概要の馬術部の写真をみて興味を持った様子だった。構内に馬房がある大学は珍しいと思うので、PRポイントの一つかもしれない。

(ECC 職員から)

・なかなか合格が難しいようだが、留学生の受け入れは消極的なのか？

そんなことはない。

・差し支えなければ、合格ラインはいかほどか

回答せず。

募集定員は若干名としており、そのときの志願者の成績にもよるので、一概には言えない。

・岩手大学の理工学部の特徴は？

「学内カンパニー」という、学生が起業した疑似カンパニーを大学が支援している取り組みがある。学生のうちから、自分の研究がどう社会とつながるのか、という経験が出来る。

・個人情報勉強したい、という生徒がいるのだが、どの学部になるか

たくさんの情報を扱う(ビッグデータ)、システム開発、という視点であれば、本学の場合、理工学部になるが「個人」情報に限定してしまうと、本学だけでなく、他の大学でも選択肢が狭まってしまふ懸念があるので、学部生のうちはもう少し広くとらえていただいたほうが良いと思う。

【その他】

隣のブースだった大阪教育大学(ブースにほとんど生徒が来ず)の職員の方とお話したところ、

・来年度から改組※するのだが、改組内容について ECC 側に間違ったメッセージが伝わったようで、ECC 側が生徒にすすめないようにしていたらしい、(ECC 職員から『生徒にすすめられない』と言われた)とのことだった。

※ 例として「多文化リテラシーコース」が「日本語教育コース」に再編

ECC 職員からの働きかけ、というのは生徒への影響が強いのかも、と感じた。

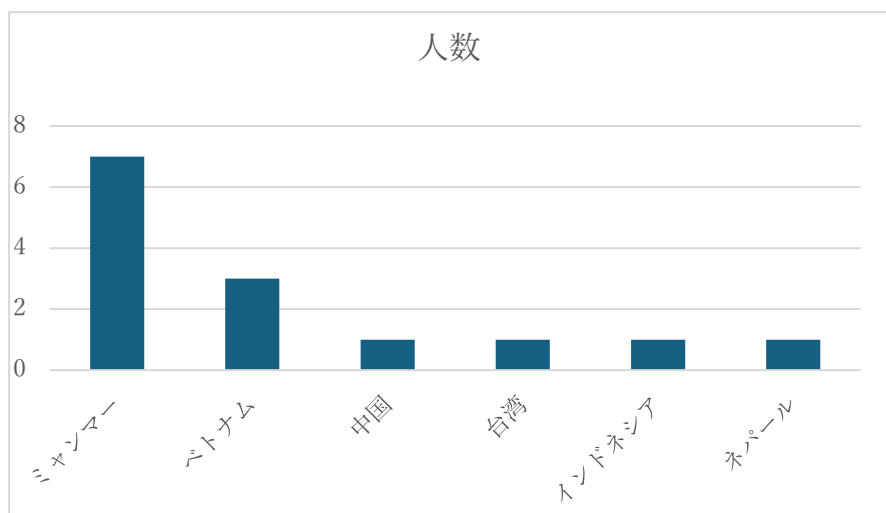
◇撤収

・保管用資料を1部、机の上に置く

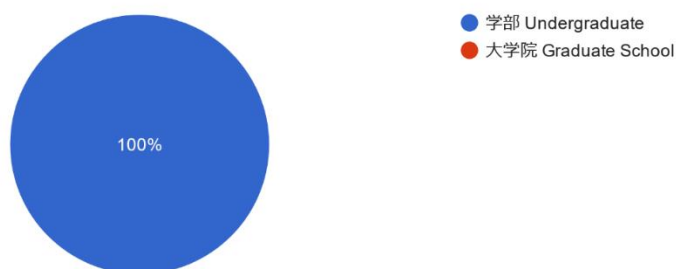
・残部は処分してくれるとのことだったので、机の上に置いてきた

・その他大学に持ち帰りたい荷物(手持ち資料やテーブルクロスなど)着払いで大学に発送依頼(伝票は先方が準備してくれた)

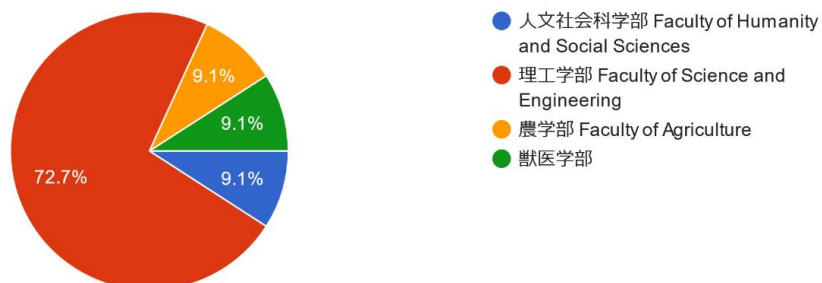
生徒は大学へのこだわりがあまりないような印象もあったので、「岩手大学」のアピールと併せて、勉強・生活する場所としての「岩手」「盛岡」のアピールをした方が良いかもしれないとも思った(都市と田舎がほどよくある、物価(生活費)が安い、など)。



進学希望 学部 / 大学院 Desired destination Undergraduate / Graduate school  
11 件の回答



希望学部 Desired faculty  
11 件の回答



## 2. 国外

### 2.1 日本留学フェア(タイ バンコク)

主催:独立行政法人日本学生支援機構

日時:9月8日(日)

出張者:理工学部 助教 阿部 貴美

国際課 主事 木下 智陽

◇報告

日本全国の高等教育機関から45機関が参加した。来場者数は 1,240 名(2019 年: 2,605 名)であった。

化学やデジタル技術、AI、機械・航空等、理工学系に興味のある学生が大半を占めていた。意外にも、音楽を学びたいという学生からの問い合わせが3件ほどあった。獣医学を学びたいという問い合わせが2件ほどあった。

通訳のエムさんに対しては、来場した学生はタイ語を話していたが、阿部・木下に対しては、全員(保護者も含め)が英語を話してきた。

来場した学生全員が、既に学びたい分野がはっきりとしていた。そのため、「貴学の理工学部ではこれが学べるか?」という具体的な質問が多かった。難しいが、ある程度、岩手大学教員の研究内容を把握しておくのが望ましいと感じた。

岩手大学への進学を強く希望する者もあり、入学試験の時期、奨学金、授業料、盛岡の気候、国際交流会館に入居できるか?など、具体的な説明を行う場面もあった(全て英語)。

岩手大学の学士課程、または修士課程に、英語で受講できるコースがあるか?という質問がとても多かった。無いと回答した後の、研究生の制度を説明する流れは多かった。

【参考】

アンケート記入した来場者情報 計 38 名(全員タイ国籍)

・学部希望 21 名、大学院希望 17 名

## 2.2 日本留学フェア(インドネシア ジャカルタ)

日時:令和6年11月24日(日)

出張者:国際教育センター准教授 アンデス カールキビスト

国際課主査 八重樫 洋哉

連合農学研究科長補佐 原科 幸爾

連合農学研究科主任 相川 和慶

◇報告

ジャカルタコンベンションセンターで開催された留学フェアに参加。連合農学研究科卒

で、現在はスディルマン大学で講師をしているプルオコ ハリ クンチョロ氏に通訳を依頼。連合農学研究科の原科教授、相川主任にも協力してもらい、総勢5名が総がかりで11時～17時まで対応にあたった。訪問者が途切れることがなく、持参した資料200部は午後14時前に全て配布。その後は、同資料をQRコードで読み込ませて対応した。主な質問内容は入試に関して。同内容を繰り返し回答することが多かったので、次回は説明用のフローチャートを作成した方が良い。全体来場者数 4,118 人。

報告:国際課

## 岩手大学外国人留学生同窓会事業報告

卒業・修了生に大学が進める改革や取り組みを伝え、大学の教育・研究・社会貢献に対する率直な意見を聞く機会として、外国人留学生 OB・OG 等との懇談会を 2015 年度から 2019 年度までに国内外で計 10 回開催してきた。更に、この懇談会を契機として、各地域の同窓生が継続して交流を推進・強化し、2019 年 11 月には岩手大学創立 70 周年記念事業国際シンポジウム分科会として岩手大学外国人留学生同窓会設立大会を開催し、同窓会活動を進めている。

令和 6 年度は下記の事業を実施した。

### 1. 外国人留学生同窓会長春支部との交流会

◇日程:12 月 1 日(日)

◇出席者

岩手大学から

小川智学長、ラーマンアビドゥール(農学部教授)、畠山勝徳(農学部教授)、  
斎藤梨絵(農学部助教)、崔華月(国際課外国語専門員)

支部(卒業生及び関係者)から

楊連玉(吉林農業大学教員、農学部客員研究員)、李斌(吉林大学教員、連大修了生)、肖靖(吉林農業研究所研究員、連大修了生)、楊溪(吉林大学教員、理工学研究科博士修了生)、張健(吉林農業大学教員、7 月に岩手大学を訪問)、王曉梅(吉林農業大学教員、農学部客員研究員、急用により欠席)、許秀穎(吉林農業大学教員、農学部交換留学生、急用により欠席)、卒業生の家族

◇報告

吉林大学の李斌先生の呼びかけで、長春支部の方々と夕食を兼ねた交流会を行った。学長から、長春支部からのイーハトーブ基金への寄付に対するお礼と、大学の現況などの紹介があった。卒業生からは、現在のお仕事や日本での思い出などを一人ひとりが紹介してくれた。中には 8 年間日本に滞在した方もおり、懐かしい話題で盛り上がった。

学長から、創立 80 周年に向けて大学と卒業生との連携の重要性についてお話があり、皆さんの各分野での活躍を祈念して、交流会は円満に終了した。

## 2. 外国人留学生同窓会タイ支部との交流会

◇日程:9月7日(土)

◇出席者

岩手大学から

理工学部 助教 阿部 貴美

国際課 主事 木下 智陽

支部から

パイリントラさん、パットポンさん、ベンさん

◇報告

本学卒業生のパイリントラさん、パットポンさん、ベンさんの3名と、岩手大学2名の計5名で交流会を行った。在学当時の岩手大学での専攻や学生生活、現在のタイでの生活等を、食事を交えながらお話いただいた。機会がある限り、タイの学生に岩手大学の魅力を伝え、留学を勧めていくとのこと。なお、ベンさんは国際教育センター長松岡先生から日本語を学んでいて、令和6年12月に家族を連れて岩手大学を訪れたいとおっしゃっていた。

【参考】外国人留学生同窓会支部一覧(令和7年3月現在)

	支部名	①代表者 ②事務局	申請日
1	岩手大学外国人留学生同窓会東京支部 Alumni association for Iwate University International Students Tokyo branch	①李 書墨	2018.6.15
2	岩手大学外国人留学生同窓会西安支部 Alumni association for Iwate University International Students Xi'an branch	①張 志毅	2018.6.20
3	岩手大学外国人留学生同窓会モンゴル支部 Alumni association for Iwate University International Students Mongolia branch	①グンジー プリーグ ②ヌグジガル プレブツォグ ト	2018.6.20

4	岩手大学外国人留学生同窓会タイ支部 Iwate University Alumni Association of Thailand (IWAAT:イワート)	①ラタナチャイ パイリントラ ②ナロンサック ピシヤヤピ スト	2018.7.4
5	岩手大学外国人留学生同窓会長春支部 Alumni association for Iwate University International Students Changchun branch	①趙蘭波 ②楊連玉	2018.8.20
6	岩手大学外国人留学生同窓会長江デルタ支部 (上海、浙江省、江蘇省地域) Alumni association for Iwate University International Students Yangtze River Delta branch	①楊建華 叢 培紅(副支部長) ②毛 偉	2019.6.21
7	岩手大学マレーシア同窓会 Malaysian Alumni of Iwate University (MAIU) Malaysian Alumni of Iwate University (MAIU)	①Hanafiah Yussof ②Isrami Ismail	2019.10.10
8	岩手大学外国人留学生同窓会岩手支部 Alumni association for Iwate University International Students Iwate branch	①李 金花 ②白 韻	2021.3.23
9	岩手大学外国人留学生同窓会インドネシア支部 Iwate University Alumni Association of Indonesia (IWAAD)	①&② アントニウス ラーマト プ ジョ プルノモ	2023.2.6
10	岩手大学外国人留学生同窓会台湾支部 Alumni association for Iwate University International Students Taiwan branch	①唐 硯漁 ②謝 褪瀟	2023.3.1
11	岩手大学外国人留学生同窓会大韓民国麗水支部 Alumni Association for Iwate University	①崔 明洛 ②孫 慧練	2023.3

	International Students, Korea Yeosu Branch		
--	--	--	--

報告:国際課

## 2024 年度 留学生アンケート

### 1. 目的

国際教育センター・国際課の掌握事項を中心として留学生に関する事項について留学生に広く意見を求め、課題や問題点を把握し、業務の改善に役立てるため実施した。

### 2. 日時

令和7年3月3日(月)～3月21日(金)

### 3. 方法

電子アンケートシステムにより実施する。アンケート結果についてはホームページにて公表する。

### 4. 対象者

岩手大学附属留学生

### 5. 内容

以下アンケートのとおり。

- ・あなたは正規生(学部生、大学院生)ですか、非正規生(研究生、特別聴講学生(交換留学生)等)ですか？
- ・岩手大学への満足度について、5段階評価で教えてください。
- ・岩手大学に満足していることは何ですか。
- ・岩手大学に改善してほしいことは何ですか。
- ・岩手大学を留学先に選んだ理由は何ですか。
- ・岩手大学の情報はどこで得ましたか。(複数回答可)
- ・岩手大学キャンパスの学習環境はいかがですか。
- ・岩手大学キャンパスの学習環境について、あなたが当てはまると思うものを選んでください。
- ・国際交流会館または学生寮に住んだことがありますか？
- ・岩手大学国際交流会館／学生寮に入居した方にお聞きします。会館／学生寮に住んでみてどうでしたか？
- ・岩手大学の国際交流会館や学生寮について、あなたが満足している点を選んでください。
- ・岩手大学の国際交流会館や学生寮について、改善してほしい点を選んでください。
- ・学内の情報は主にどのような方法で得ていますか？

- ・岩手大学に入学した際、何か困ったことや不安に感じたことはありましたか？
- ・大学生活に関わることで困ったことがあった時は、どうやって解決していますか？
- ・学内の案内表示、掲示物、書類などで、多言語対応が必要だと感じたものがあれば教えてください。
- ・岩手大学の教員の対応はいかがでしたか。
- ・大学の教員の対応について、以下の項目についてどのように感じましたか？
- ・あなたは現在、私費留学生ですか？
- ・私費留学生の方にお聞きします。授業料免除や奨学金などの経済支援について、どのように感じましたか？
- ・私費留学生の方にお聞きします。どのような経済支援が特に役に立ちましたか？
- ・授業料免除や奨学金などの経済支援が受けられない場合、どのような点で困りますか？
- ・国際課から提供される留学生向けの各種サポート(証明書発行、ビザ更新、留学生地域派遣、留学生フィールドツアー、民間アパートの連帯保証人、留学生後援会からの支援など)について、どのように感じましたか？
- ・国際課の留学生サポートについて、満足している点は何ですか？
- ・国際課の留学生サポートについて、不満な点は何ですか？
- ・留学生のチューター制度について、どのように感じましたか？
- ・留学生のチューター制度で、役立った点は何ですか？
- ・留学生のチューター制度について、感想や改善点があればご記入ください。
- ・日本語の授業を受講された方にお聞きします。日本語の授業はいかがでしたか。
- ・上記の選択肢を選んだ理由を教えてください。
- ・グローバルビレッジのイベントには参加しましたか。
- ・グローバルビレッジのイベントに参加したことがある方にお聞きします。イベントに参加して、どのように感じましたか？
- ・グローバルビレッジのイベントで、今後参加したいと思うイベントの種類はどのようなものですか？
- ・グローバルビレッジのイベントにあまり参加しなかった方や全く参加しなかった方にお聞きします。参加しなかった理由を教えてください。
- ・グローバルビレッジのイベントで、今後参加したいと思うイベントの種類はどのようなものですか？
- ・国際課で、留学生に対する職員の窓口対応はいかがでしたか。
- ・国際課で、留学生に対する職員の窓口対応について、あてはまると思うものを選択してください。
- ・卒業後の予定は何ですか。
- ・どのような分野に就職を希望していますか。

- ・「日本において就職希望」と答えた方にお聞きします。日本のどこで働きたいですか？
- ・日本において就職した後の将来はどのように考えていますか。
- ・日本での就職活動をする際に、どのようなことを望みますか。
- ・岩手大学卒業／修了後、岩手大学卒業留学生の同窓会に興味はありますか。
- ・岩手大学卒業留学生の同窓会に興味がある場合、大学からどのような情報を受け取りたいですか？
- ・これから留学を目指す人々に対して、岩手大学のどのような情報をPRすべきだと思いますか？
- ・どうすればより多くの留学生が岩手大学に入学すると思いますか？
- ・岩手大学の国際化に対する意見・要望があれば自由に記述してください。
- ・その他、岩手大学への感想、意見等自由に記述してください。

## 6. 回答者数

43/209 名

報告：国際課

# 岩大グローバルアルムナイネットワーク事業報告

## 1. 概要

岩手大学在学中に海外留学を経験した等、国際派の同窓生ネットワークを構築し、同窓生同士の交流や、岩手大学の国際交流及び留学等を志す岩手大学生への様々なサポートを行うコミュニティを構築する。

## 2. 目的

卒業生及び在学生とのグローバルな相互交流により、岩手大学全体の国際化に寄与することを目的とする。

## 3. 名称

ROCKS:岩手大学の「岩」から由来。

R: Reuniting

O: our

C: community

K: keeping

S: solid

## 4. 対象

岩手大学卒業生のうち

- 1)特に留学・海外経験のある方
  - 2)海外在住の方
  - 3)国際的な業務をされている方
  - 4)留学や海外経験を岩大生に体験してもらいたいという方
  - 5)その他岩手大学の国際交流の取り組み応援したいという方
- 等

## 5. 実績

2020 年度

- ・ 農学部卒業生若原さん(現在はアメリカ在住)が動画による現役学生との対談実施
- ・ 卒業生による留学体験談報告を作成・発行(HP,SNS)

2021 年度

- ・ グローカルキャリアセミナーwith 岩大グローバルアルムナイコミュニティ Gandai のセンパイトーク!「留学経験を経て東北で活躍する卒業生」高橋和希さん(2021/7/16)
- ・ グローカルキャリアセミナーwith 岩大グローバルアルムナイコミュニティ Gandai のセン

パイトーク！「留学経験を経てアメリカで活躍する卒業生」江村菜津子さん  
(2021/11/15)

2022 年度

- ・ Gandai のセンパイトーク！&研究セミナー Collab with UGAS (岩手大学連合農学研究科)「NY 工科大学で研究者として活躍する卒業生」小林覚さん(2022/11/7)
- ・ Gandai のセンパイトーク！「グローバルに生きること、その先に思うこと」石沢友紀 さん

2023 年度

- ・ Gandai のセンパイトーク！&研究セミナー Collab with UGAS (岩手大学連合農学研究科)「テキサスで大学教員として活躍する卒業生」鈴木雅子さん(2023/12/13)
- ・ (岩手大学)2023 年度学長と外国人留学生・卒業留学生との懇談会及び外国人留学生同窓会総会へ ROCKS メンバーも参加(2024/3/1)

2024 年度

- ・ 2023 年度末に ROCKS メンバーへ、在学生在が直接留学相談を行うことができる Slack を開設し、運用を開始した。

## 6. 活動予定案

- ・ グローバル・ヴィレッジイベントへの参加(同窓生によるイベント企画、セミナー講師、All in English 等への参加)
- ・ 岩手大学国際交流ホームページ上でインタビュー記事掲載、岩大生に向けて応援動画の掲載・SNS 配信等
- ・ 定期的な同窓会(オンライン開催含む)
- ・ 学長との懇談会開催
- ・ 岩大生お助け相談窓口(相談に応じて良いという同窓生のプロフィール掲載、SNS を活用等)
- ・ 卒業生の職場等へインターン受入

## 7. メンバー数(2025 年度現在)

13 名

※同窓会への登録を希望する個人からの届け出制

## 8. ホームページ

<https://www.iwate-u.ac.jp/iuic/alumni/to-alumni/rocks.html>

報告:国際課

## 外国の大学との交流

### Academic Cooperation between Universities/Faculties

令和7年5月1日現在

#### 大学間協定 Universities

国名 Country	大学等名 Name of University	初締結 年月日 First Date of Agreement	主な交流内容 Contents of Exchanges	
			学術 交流 Academi c Exchang e	学生 交流 Student Exchang e
中華人民共和 国 People's Republic of China	曲阜師範大学 Qufu Normal University	2002.9.25	○	○
	北京大学・石河子大学 Peking University Shihezi University	2003.12.5	○	○
	西北大学 Northwest University	2003.12.9	○	○
	大連理工大学 Dalian University of Technology	2005.5.23	○	○
	吉林農業大学 Jilin Agricultural University	2006.10.3	○	○
	寧波大学 Ningbo University	2006.10.28	○	○
	山東工芸美術学院 Shandong University of Art and Design	2016.7.21	○	○
	上海海洋大学 Shanghai Ocean University	2017.5.16	○	○
	福建農林大学 Fujian Agriculture and Forestry University (FAFU)	2019.7.8	○	○
	華南理工大学 South China University of Technology	2022.12.13	○	○
吉林大学 Jilin University	2025.3.27	○		
大韓民国 Republic of Korea	明知大学校 Myongji University	2004.7.13	○	○
	国立 HANBAT 大学校 Hanbat National University	2006.8.23	○	○

	全南大学校 Chonnam National University	2009.9.1	○	○
	群山大学校 Kunsan National University	2016.1.27	○	○
台湾 Taiwan	国立高雄師範大学 National Kaohsiung Normal University	2011.7.8	○	○
タイ王国 Kingdom of Thailand	サイアム大学 Siam University	2002.7.2	○	○
	キングモンクット工科大学トンブリ校 King Mongkut's University of Technology, Thonburi	2016.6.20	○	○
	ラジャマンガラ工科大学ラーナ校 Rajamangala University of Technology Lanna	2017.7.26	○	
	パンヤピワット経営大学 Panyapiwat Institute of Management	2017.12.18	○	○
	チェンマイ大学 Chiang Mai University	2019.5.8	○	
	ラジャマンガラ工科大学タンジャブリ校 Rajamangala University of Technology Thanyaburi	2019.5.19	○	
	ナレスアン大学 Naresuan University Naresuan University	2021.11.30	○	○
	キングモンクット工科大学ラカバン校 King Mongkut's University of Technology, Ladkrabang	2024.4.15	○	○
	パヤオ大学 University of Phayao	2024.11.1	○	
	カセサート大学 Kasetsart University	2025.1.24	○	
ミャンマー連邦 共和国 Republic of the Union of Myanmar	パテイン大学 Pathein University	2016.12.4	○	

マレーシア Malaysia	マレーシアパハンアルスルタンアブドラ 大学 Universiti Malaysia Pahang Al-Sultan Abdullah	2021.9.1	○	○
インドネシア共 和国 Republic of Indonesia	IPB 大学 IPB University	2025.3.34	○	○
アメリカ合衆国 United States of America	オーバン大学 Auburn University	1998.11.6	○	
	アーラム大学 Earlham College	2003.8.11	○	○
	テキサス大学オースティン校 The University of Texas at Austin	2004.10.20	○	○
	アラスカ大学アンカレッジ校 University of Alaska Anchorage	2016.2.5	○	○
カナダ Canada	セント・メアリーズ大学 Saint Mary's University	2003.7.31	○	○
	サスカチュワン大学 University of Saskatchewan	2013.3.1	○	○
アイスランド共和 国 Republic of Iceland	アイスランド大学 The University of Iceland	2011.2.16	○	○
ロシア連邦 Russian Federation	サンクト・ペテルブルグ国立文化大学 St. Petersburg State University of Culture	2000.3.28	○	○
モンゴル国 Mongolia	モンゴル国立大学 National University of Mongolia	2017.10.1	○	○
	モンゴル科学技術大学 Mongolian University of Science and Technology	2018.9.4	○	○
	新モンゴル学園 New Mongol Academy	2023.9.13	○	○
イギリス(スコット ランド) United Kingdom (Scotland)	スターリング大学 University of Stirling	2020.11.2	○	○※

※大学院生の受入(交換留学外)

報告:国際課

## 国際交流支援コーディネータについて

国際交流支援コーディネータは、国際化推進のための理念に基づく目標を達成するため、本学における特定の国際化推進事業を支援する専門的知識等を有する外部の者を、岩手大学国際交流支援コーディネータとして委嘱している。令和6年度は新たに3名の者を委嘱した。

### 国際交流支援コーディネータ 委嘱者

No.	氏名	国籍	現職	委嘱日
1	ラタナチャイ パイリントラ	タイ	King Mongkut's University of Technology Thonburi 助教授	2006年 9月1日
2	管 信利	日本	NPO 法人 ASIA Environmental Alliance 副代表	2014年 10月1日
3	楊 建華	中国	寧波大学日本語系副主任 副教授	2014年 10月1日
4	唐 硯漁	台湾	国立高雄師範大学 文化創意設計産学中心主任教授 工業設計系教授	2014年 10月1日
5	門馬 孝之	日本	無職	2016年 4月1日
6	ポントーン トゥーパーミー	タイ	タマサート大学工学部 助教授	2017年 10月1日
7	ナロンサック ピチャヤピスット	タイ	カセサート大学人文学部 専任講師	2017年 10月1日
8	イスラミ イスマイル	マレーシ ア	I-FIRM SDN BHD 社 代表	2017年 10月1日
9	アントニウス ラーマト プジョ プルノモ	インドネ シア	アイルランガ大学 准教授	2018年 10月1日
10	林 珈汶	台湾	ブランドマネージャー	2018年 10月1日
11	ヌグジガル プレブツォグット	モンゴル	モンゴル国立大学 プログラム・信頼性保証室長	2019年 10月1日

No.	氏名	国籍	現職	委嘱日
12	田中 琢治	カナダ	サスカチュワン大学 准教授	2019年 10月1日
13	萩原 薫	日本	高エネルギー加速器研究機構 名誉教授	2021年 10月1日
14	徳山 喜政	日本	台湾の環球科技大学デザイン学部 デジタルメディアとプロンプトデザイン 学科 客座教授	2022年 10月1日
15	ヤンパンヤーノン セクサーン	タイ	ナレスアン大学 准教授	2023年 10月1日
16	チャルシリ パス	タイ	シラパコーン大学 講師	2023年 10月1日
17	チン テンリ	台湾	台北科技大学 教授	2023年 10月1日
18	魏 華茂	中国	寧波大学食品薬学部 講師	2023年 10月1日
19	上村 松生	日本	岩手大学農学部名誉教授 元岩手大学副学長(国際連携・広 報担当)	2023年 10月1日
20	姜 澎	中国	山東建築大学芸術学部 講師	2024年 4月1日
21	ジャガルサイハン ソヴド	モンゴル	デザインコンサルタント	2024年 4月1日
22	ヴーティトゥフー ン	ベトナム	ニデックアドバンスドモータ(ベトナ ム)会社	2024年 4月1日
23	ソソラバラム バトゥジャルガル	モンゴル	デザインコンサルタント	2025年 4月1日
24	余 莞婷	中国	華南理工大学 プログラム コーデ イナー	2025年 4月1日
25	陳 徳馨	中国	暨南大学准教授	2025年 4月1日

報告:国際課

## Iwate University Global Fellow について

「Iwate University Global Fellow」称号は、海外の教育研究機関等で活躍する本学の卒業生及び元教職員との関係強化並びに本学の国際的プレゼンスの向上を目的として授与している。

### Iwate University Global Fellow 授与者

No.	氏名	国籍	所属等	授与日
1	Chilakamarri (Chary) Rangacharyulu	カナダ	University of Saskatchewan サスカチュワン大学 教授	2017 年 2 月 27 日
2	Karen Kikumi Tanino	カナダ	University of Saskatchewan サスカチュワン大学 教授	2017 年 4 月 18 日
3	Arnold Martin Howitt	アメリカ合 衆国	Harvard University ハーバード大学 アッシュセンター上級顧問	2017 年 6 月 16 日
4	Minjie Wang (王 敏杰)	中国	Dalian University of Technology 大連理工大学 模具研究所 教授	2017 年 6 月 21 日
5	Zhongchen Wang (王 中忱)	中国	Tsinghua University 清華大学 教授	2018 年 8 月 8 日
6	Lanpo Zhao (趙 蘭坡)	中国	Jilin Agricultural University 吉林農業大学 教授	2018 年 9 月 8 日
7	Choi Myeongrak (崔 明洛)	韓国	Chonnam National University 全南大学 教授	2019 年 11 月 14 日
8	Peihong Cong (叢培紅)	中国	Fudan University 復旦大学 教授	2019 年 3 月 9 日

報告:国際課

## 令和6年度交換留学生受入・派遣実績

学部等	受入 学生数	内訳	派遣 学生数	内訳
人文社会科学部	11	韓:明知大学 2 仏:ホルトール・モンテニュ大学 2 露:サンクト・ペテルブルク 国立文化大学 2 中:寧波大学(外語学院) 1 中:西北大学 1 韓:群山大学 1 台湾:高雄師範大学 1 アイスランド:アイスランド大学 1	8	中:西北大学 2 韓:群山大学 2 仏:ホルトール・モンテニュ大学 2 中:寧波大学(外語学院) 1 米:テキサス大学オースティン校 1
教育学部	6	中:曲阜師範大学 3 中:寧波大学(外語学院) 1 中:西北大学 1 タイ:サイアム大学 1	1	中:西北大学 1
理工学部	4	モンゴル:新モンゴル工科大学 2 モンゴル:モンゴル科学技術大学 1 タイ:キングモンクット工科大学 ラカハン校 1	-	-
農学部	4	中:上海海洋大学 3 韓:全南大学 1	1	米:アーラム大学 1
総合科学研究科 総合文化学専攻	5	中:寧波大学(外語学院) 2 中:寧波大学 (食品科学与工程学院) 2 中:西北大学 1	-	-
総合科学研究科 理工学専攻	3	台湾:高雄師範大学 3	1	台湾:国立嘉義大学 1
国際教育センタ ー	1	インドネシア:アイルランガ大学 1	-	-
合計	34	-	11	-

報告:国際課

## 訪問海外研修生受入実績

訪問海外研修生:

岩手大学において短期間(3日以上90日以下)の教育、研究指導又は研修を受けることを希望する外国の大学等の学生を「訪問海外研修生」(英語名称“Short-Term Visiting Trainee”)として受け入れることで、当該者の本学における諸活動に便宜を図り、もって本学の国際的な人材育成の推進に資することを目的とした事業。

令和6年度実績

学生の出身国	人数
中国	12
台湾	1
韓国	8
タイ	5
アメリカ合衆国	3
カナダ	14
バングラディシュ	1
ロシア	3
合計	47

報告:国際課

## 海外留学支援事業

海外の大学との学生交流や様々な海外研修プログラムについての情報提供の場として以下の事業を実施した。

### 1. 国際月間

#### 1.1 概要

岩手大学では、本学の学生・教職員及び一般市民に対し、国際理解力の増進と国際交流への関心度を向上させ、各事業の波及効果の上昇を図ることを目的に、毎年秋に「岩手大学国際月間-Iwate University International Month-」を開催している。

なお、国際月間期間中のグローバルビレッジイベントは、国際月間イベントとして開催する。【期間】 11月1日（金）～11月29日（金）

#### 1.2 実施行事一覧

月日	時間	プログラム	場所（学内）
月間中		海外派遣・国際交流プログラム参加体験展示/動画放映	国際課隣フリースペース
11/1-		オンデマンド型海外留学体験報告会	岩手大学国際交流 YouTube
11/1	17:00-18:00	ベリーダンスワークショップ	多目的室
11/5	12:20-12:50	センパイトーク	グローバルビレッジ
11/6, 11/27	12:20-12:50	ニーハオ！漢語	多目的室
11/7, 14, 21, 28	12:20-12:50	にほんごカフェ	グローバルビレッジ
11/7	17:00-18:30	TOEFL iBT 勉強会	グローバルビレッジ
11/11, 11/18, 11/25	17:00-18:00	Public Staff English Lounge	TOVLAB
11/12	15:00-16:00	英語でチャレンジ！写真撮影ワークショップ	グローバルビレッジ及び野外
11/12, 19, 26	12:20-12:50	All in English	グローバルビレッジ
11/13	12:20-	Country & Culture: Iceland	グローバルビレッジ

	12:50		ツジ
11/14	17:00- 18:00	Evening English	グローバルビレ ツジ
11/15	12:20-12:50	トビタテ！留学 JAPAN 概要説明会	グローバルビレ ツジ
11/15	13:30-15:00	農業教育資料館ツアーとピアノの夕 べ	農業教育資料館
11/18	17:00-18:00	Hi こちら韓国・群山大学からアンニ ョンハセヨ！	多目的室
11/19	15:30-18:30	Ikebana Workshop	グローバルビレ ツジ
11/21	13:40-14:40	Hi こちら西北大学からニーハオ！	グローバルビレ ツジ
11/21	15:30-16:30	Thai Event & Workshop	グローバルビレ ツジ
11/21	17:00-18:00	米国・アーラム大学 特別講演会	グローバルビレ ツジ
11/22	13:00-14:30	Board Games Event	グローバルビレ ツジ
11/22	17:00-18:30	トビタテ！留学 JAPAN 申請書執筆セ ミナー	グローバルビレ ツジ
11/25	12:20-12:50	Hi こちらテキサス大学・アーラム大 学（米国）	グローバルビレ ツジ
11/26	15:30-16:30	生け花体験教室	グローバルビレ ツジ
11/28	17:30-19:00	English Room	グローバルビレ ツジ

報告:国際課

## 国際研修事業報告

### 1. 事業趣旨

国際研修 SCIP フィリピン を、以前と同じトピック「貧困」で再開させるために、令和 5 年度に実施した視察プログラムをもとに岩手大学生向けの研修を展開した。

### 2. 事業内容

NGO LOOB と旅行代理店 With The World の協力のもと、「貧困・環境・教育・平和」に焦点を当てた課題設定型短期研修を実施した。参加者は人文社会科学部 5 名、農学部 3 名、理工学部 1 名、教育学部 1 名の計 10 名(2 年生 6 名、1 年生 4 名)であった。

事前研修では、NGO LOOB が提示した 4 つのテーマ(貧困・教育・環境・平和)について基礎知識を学び、岩手の地域課題と照らし合わせて検討した。加えて、英語での異文化コミュニケーション練習、フィリピン・イロイロ科学技術大学の学生(フィリピンバディ)との交流、グループ課題設定なども行った。

事後研修では、学びや成長を振り返り、成果発表を実施した。また令和 7 年 5 月には、参加学生による岩手の課題解決方法提案発表会を開催した。

### 3. 現地研修の概要

#### a) トピックとスケジュール

日付	テーマ	活動内容
1 日目	移動(成田～イロイロ)	20 時 宿舎到着
2 日目	オリエンテーション・物価調査	オリエンテーション、物価に関する学習
3 日目	教育	中学校訪問と交流
4 日目	環境	ゴミ処理場視察とインタビュー、アップサイクル体験
5 日目	Youth Empowerment	ボランティア体験(海岸のゴミ拾い)、エコファーム視察
6 日目	貧困	ゴミ山近くのコミュニティでインタビュー、コミュニティマップ作成
7 日目	文化体験・中間発表	博物館、教会、歴史的建造物見学、中間発表
8 日目	平和	戦争資料館や墓地見学、調査
9 日目	発表・お別れ会	最終発表、お別れ会
10 日目	移動(イロイロ～成田)	20 時 成田空港到着

#### b) 1 日の主な流れ

午前:日本人インターン生との振り返り(日本語)、フィリピンバディとのアイスブレイク(英語)、トピック学習・講義(英語)、グループワーク(英語)

午後:フィールドワーク、グループシェアリング、買い出し(英語)

夕方:夕食後、英語での発表、日本語での振り返り

日本語での振り返りを除き、学生はフィリピンバディと協働学習を行った。

#### 4. 教育効果(学生の声)

〈英語力への気づき〉

「自分の英語力のできなさにショックを受けたが、間違っても大丈夫という雰囲気の中で英語で発表できた。ジョークを理解したり笑い合えたりしたことで、コミュニケーション能力が高まったと実感した。」

〈価値観の変化〉

「自分の世界が狭かったと気づいた。物で幸せを測れないことを感じ、同時に罪悪感も覚えた。研修後も余韻が残るほど学びが深かった。」

〈環境問題への関心〉

「午前のレクチャーやフィールドワークを通じ、環境問題は他分野と独立していないと実感した。初日は受け身だったが、徐々に自分から英語で話しかけられるようになり、幸せの価値観について改めて考える機会となった。」

〈協働の大切さ〉

「自分にない発想や英単語は周囲が補ってくれると実感した。協力しながらコミュニケーションを取ることの大切さを学んだ。」

#### 5. 総括

現地でのインタビューやフィールドワークでは、質問を続けられない、日常会話が途切れるなど英語運用に苦戦する学生も多く見られた。また、日本人同士で会話し感情共有をする場面も目立ち、英語でのコミュニケーションには依然として壁があると感じられた。ただし、学生自身もその課題を強く自覚し、悔しさを糧に今後の学びにつなげようとする姿勢が顕著であった。今回の9日間の研修を契機に、さらに溝を埋める言語運用スキルやスタイルを模索し続けてほしい。

テーマである「貧困・教育・環境・平和」は独立したものではなく、互いに深く関連していて、グローバル課題は複雑な要因が絡み合っているということを学生たちは身をもって経験した。特に貧困と環境に重点が置かれたが、教育や平和とも関連づけて体験を深められた点は大きい。一方で、日本の状況を英語で説明したり、会話を継続したり、議論を掘り下げる点では困難が残った。これは事前研修で十分に扱えていなかった課題であるため、次回は学生が難しさを軽減できるような英語活動を増やしたい。

報告:山内亜美

## 岩手大学外国人留学生地域派遣実績一覧（R6 年度）

派遣依頼元	派遣日程	派遣留学生数	出身地別	交流の内容
滝沢市国際交流協会	6月7日～7月26日	1	韓国	韓国語講座講師
JR 東日本盛岡支社一ノ関統括センター	7月11日	5	中国、パキスタン、マレーシア	留学生との意見交換
フレンズ国際愛児園	7月15日	2	ハンガリー	幼稚園児との交流
盛岡第一高等学校	8月1日	2	ベトナム、中国	留学生との意見交換
フレンズ国際愛児園	9月24日	1	ニジェール	幼稚園児との交流
岩手大学地域社会教育推進室	10月30日～12月21日	1	タイ	地域づくりに関する意見交換
世界と遊ぼうじゃらんじゃらん	11月7日、11月13日	2	ニジェール、フィンランド	異文化交流・母国文化紹介
フレンズ国際愛児園	11月20日	1	アイスランド	幼稚園児との交流
JR 東日本盛岡支社一ノ関統括センター	12月6日	1	中国	留学生との意見交換
盛岡青年会議所	12月24日、12月25日	1	中国	羅東国際青年商會との交流
フレンズ国際愛児園	2月10日	1	ネパール	幼稚園児との交流
株式会社 JTB 盛岡	2月17日	2	台湾	台湾語講座

支店				
派遣依頼元	派遣日程	派遣留学生数	出身地別	交流の内容
盛岡第一高等学校	3月29日	3	タイ、モンゴル、台湾	留学生との意見交換

報告:国際課

## トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム 岩手大学の採択状況

平成 26 年度(第1期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
自然科学系、複合・融合系人材コース	4名	3名	2名
新興国コース	1名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	1名	0名	0名
多様性人材コース	3名	0名	0名
計	9名	3名	2名

平成 27 年度前期(第2期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
自然科学系、複合・融合系人材コース	2名	2名	1名
新興国コース	1名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	1名	0名	0名
多様性人材コース	0名	0名	0名
計	4名	2名	1名

平成 27 年度後期(第3期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
自然科学系、複合・融合系人材コース	3名	3名	1名
新興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	1名	0名	0名
多様性人材コース	1名	0名	0名
計	5名	3名	1名

平成 28 年度前期(第4期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	2名	1名	0名
新興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	0名	0名	0名
計	2名	1名	0名

平成 28 年度後期(第5期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	5名	3名	2名
新興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	0名	0名	0名
計	5名	3名	2名

平成 29 年度前期(第6期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	1名	1名	1名
新興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	1名	1名	1名
計	2名	2名	2名

平成 29 年度後期(第7期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	3名	2名	1名
新興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	0名	0名	0名
地域人材コース	5名	5名	5名
計	8名	7名	6名

平成 30 年度前期(第8期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	2名	1名	1名
新興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	0名	0名	0名
計	2名	1名	1名

平成 30 年度後期(第9期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	4名	3名	2名
新興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	3名	2名	2名
地域人材コース	4名	3名	3名
計	11名	8名	7名

令和元年度前期(第10期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	0名	0名	0名
新興国コース	2名	1名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	1名	0名	0名
計	3名	1名	0名

令和元年度後期(第11期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	2名	2名	1名
新興国コース	1名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名

多様性人材コース	1名	0名	0名
地域人材コース	5名	5名	5名
計	9名	7名	6名

令和2年度前期(第12期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	1名	1名	1名
新興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	0名	0名	0名
計	1名	1名	1名

令和2年度後期(第13期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	1名	新型コロナウイルス感染症 の影響により、プログラム中止	
新興国コース	2名		
世界トップレベル大学等コース	0名		
多様性人材コース	0名		
計	3名		

令和3年度前期(第14期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
理系、複合・融合系人材コース	1名	1名	1名
新興国コース	0名	0名	0名
世界トップレベル大学等コース	0名	0名	0名
多様性人材コース	0名	0名	0名
計	1名	0名	0名

令和4年度(第15期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
イノベーターコース	0名	0名	0名
STEAMコース	0名	0名	0名
ダイバーシティコース	2名	1名	0名
計	2名	1名	0名

令和5年度(第16期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
イノベーターコース	0名	0名	0名
STEAMコース	4名	2名	0名
ダイバーシティコース	1名	0名	0名
計	5名	2名	0名

令和6年度(第17期)

申請コース	申請数	書面審査合格者	最終合格者
イノベーターコース	1名	1名	1名
STEAMコース	2名	2名	1名
ダイバーシティコース	1名	0名	0名

計	4名	3名	2名

報告:国際課